

# 西曆 2022 年度 事業計画

社会福祉法人 千鳥会



## 目 次

法人本部	4～6
特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド	6～16
津名デイサービスセンター	16～19
千鳥会居宅介護支援事業	20～21
千鳥会在宅介護支援センター	21
家族介護教室・家族介護者交流事業	22
高齢者住宅等安心確保事業	22～23
特別養護老人ホーム ゆうらぎ	24～28
ゆうらぎデイサービスセンター	29～30
ゆうらぎ訪問介護ステーション	30～31
養護老人ホーム 北淡荘	31～34
地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ	34～41
千鳥会デイサービスセンターほほえみ	41～43
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	43～44
ちびっこランド ちどり	45
グループホーム しおさい	46
しおさいデイサービスセンター	47
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり	47～48
佐野デイサービスセンター	48
千鳥会福祉用具貸与事業所	48～50

## 法人本部 事業計画書

### 西暦 2022 年度目標

全世界で新型コロナウイルスの感染拡大が続き、国内においても感染症の患者が確認されてから 2 年が経過したが、現在も感染力の強い「オミクロン株」による感染拡大への対応などコロナとの闘いは続いています。

兵庫県の経営実態調査でも、事業所の利用者・家族からの希望によるサービスの利用控え、受け入れサービスの提供・縮小、更には事業所の休業等の影響が見られ、経営状況は大幅に悪化しています。また、利用者の ADL や認知機能の低下、家族の介護負担の増加等に繋がっています。今後もこの状況の長期化が予測され、介護事業を安定的に継続し、利用者が望むサービス提供が課題となっています。

2022 年度、新型コロナウイルス感染症対策を喫緊の課題として、引き続き施設職員・入所者等へのワクチン接種を含めた感染対策防止策の徹底を図ります。又、事業が安定的に継続していくために BCP 計画を早期に策定し、利用者に必要なサービスを安定的・継続的に提供される体制を構築し、万が一事業所でクラスター等が発生した場合の応援スキーム等を活用するなど事業所運営を行っていく。

### 『西暦 2022 年度法人取組課題』

#### I 利用者に対する基本姿勢

- ① 人権の尊重
- ② サービスの質の向上
- ③ 地域との関係の継続
- ④ 生活環境・利用者環境の向上

#### II 社会に対する基本姿勢

- ① 地域における公益的な取り組みの推進
- ② 信頼と協力を得るための情報発信

#### III 福祉人材に対する取組

- ① トータルな人材マネジメントの推進
- ② 人材確保に向けた取り組みの強化
- ③ 人材定着に向けた取り組みの強化
- ④ 人材育成

#### IV マネジメントにおける基本姿勢

- ① コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
- ② 組織統治(ガバナンス)の確立
- ③ 健全な財務規律の確立
- ④ 経営者としての役割

### 1. 理事会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2022年 6月	理事会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告)
第2回	2022年 8月	理事会 (経営・運営等の現状報告)
第3回	2022年 12月	理事会 (経営・運営等の現状報告・補正予算)
第4回	2023年 3月	理事会 (新年度事業計画・新年度予算)

※ 臨時理事会を開催する場合があります。

### 評議員会開催計画

回	開催年月	協議内容
第1回	2022年 6月	評議員会 (前年度事業報告・決算報告・監事監査報告・役員改選)

※ 臨時評議員会を開催する場合があります。

### 監事による監査等

開催年月	協議内容
2022年 5月	前年度収支決算の監査

### 決算書類等の備置・閲覧

定時評議員会の2週間前から備置

### 3 重点項目

#### ※ 施設整備事業

旧津名図書館利用活用

◎千鳥会ゴールドより 在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所 の移転  
総合相談窓口の設置

◎小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもりの移転  
泊まりを5室から9室 に増室

◎地域型保育事業所：定員19名 新設

◎小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり跡地 ⇒ 障害者施設の整備

#### ※ 感染症や災害等への対応力の強化

◎感染予防対策

感染症予防対策として、委員会の開催、マニュアルの整備、研修の実施

感染症が発生した場合でも、必要なサービスが断続的に提供できるための業務継続に向けた計画の策定を推進する。

## ◎災害等

多くの利用者・職員を預かる千鳥会では、地震などの被害を最小限にする「防災」はもちろん、災害時に事業を維持・早期回復するための「事業継続」を考えた行動が求められています。

そこで、「防災計画」と「事業継続計画（BCP）」を取り組む必要があります。

「防災計画」人命を守る計画で、食料の備蓄・防災訓練の実施・救護の体制の整備・安否確認のための連携

「事業継続計画（BCP）」自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損失を最小限にとどめ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき行動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく必要があります。

## ※人材確保対策の推進

中学校・高等学校等の学校現場への出前授業や専門学校等への就職出前プレゼンテーションを引き続き実施し、介護の魅力発信に努めていく。

## ※ICT等の活用

超高齢化社会が到来し、今後ますます介護分野の重要性が高まります。その一方で、少子高齢化社会で人材不足が深刻化しています。労働人口が減っていく中で、増え続ける介護需要に応えるには、介護の現場でICT活用による業務の効率性と質の両立を図る重要性があります。

## ※創立30周年記念事業

平成4年4月に開設

記念事業(新型コロナウイルス感染の状況に応じて開催)

式典

記念誌

記念品

記念旅行

## 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド

<b>2021年度 総括</b>
(1) 特養部総括
1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。→ユニット会議内で予防処置を立案し、インシデント・アクシデント報告書にて他職種で原因究明・対策を立案し実施し、リスク低減に努めた。

1-2, 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、実現に取り組む。→昼のミーティングや部署間の連絡表の作成により、情報共有の強化を図り、利用者個々の状況に応じたケアを実施。

2-1. 実務に即した感染防止マニュアルの見直し、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→コロナ感染を中心に都度マニュアルの作成やシミュレーションの実施により、施設内に感染を持ち込まないよう努めた。

2-2. 新しい生活様式に合う新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。→コロナ禍で外出・外食の制限があったが、感染対策をしたうえで、施設周辺の散策や1人カラオケ等のレクリエーションを実施。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。→Instagramへの投稿、長期利用者の家族へのお便りの発送にて近況報告を行うなど情報発信を実施。

4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。→枠組みを作成するも職員の人員の減少やコロナ禍により、実行が不十分な部分が見られた。

4-2. 目標達成・取組に対しての評価・フォローアップをコミュニケーションを交えて行い、必要時は指導を行う。また個々のスキル向上に向けて、個人目標、教育計画等を活用しながら取り組む。→品質目標の確認にて目標達成・取組の評価を行ったが、必要な職員に対しては指導を実施。

5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。→LIFEに関する加算（科学的介護推進体制加算Ⅰ、栄養マネジメント強化加算）、安全対策体制加算を新たに算定できた。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。→オムツの集計表を作成する等数値化に努めた。

## （２）事務部総括

2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。→他部署間で職員が出来るだけ接触しないよう出入り口をわけ感染対策に努めました。

2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。→職員の出入り口を分け、なるべく他部署間で職員が接触しないようにし、タイムレコーダーを事務所から玄関口に出し感染対策に努めました。

3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信をし千鳥会の良さをアピールする為、様々なSNSを使い情報発信を行うように努める。→Facebookの配信が出来なくなりInstagramで情報発信を定期的に発信するよう努めました。

5-1. 介護報酬改定に伴い加算取得するため情報収集に努め生活相談員と相談しつつ適正な収入の確保に努める。→加算取得に向けて情報収集し介護報酬の収入確保に努めました。

6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。

→毎月兵庫県から配布されるアルコールの申込を行い、補助金の申請、経費削減に努めました。

6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。→新型コロナウイルスと入院者が増え収入が予算より大幅に減りました。少ない人材で人件費を抑え経費削減に努め収支を最小限にとどめるように努めました。

### (3) 介護支援専門員総括

1-1. 4半期に1つ以上予防処置を立案する。また立案した予防処置を定期的に見直し、サービスの質の向上に努める。→会議体での提案やケアプラン作成に係る書類や手順の見直し、インシデント・アクシデントにおける訂正や修正等は実施したが、予防処置の立案は出来なかった。

1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作成できるよう努める。→他職種協働でケアプラン作成ができるよう情報を集約・発信してカンファレンスを実施し、より良いケアプラン作成に努める事が出来た。

2-1. 感染源を施設に“持ち込まない”を徹底するため、感染対策を常に意識し、体調管理を行う。→体調管理や感染症の情報・予防対策を常に意識して業務に従事することが出来た。

2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。→感染予防対策を取りながら、利用者としし柿作りや獅子舞の披露などが提供出来た。

3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。→インスタグラムへの投稿、長期利用者の家族へのお便りには直接関わりは持てなかったが、他事業所の居宅介護支援専門員等と話す機会があれば情報発信する事が出来た。

4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。→介護支援専門員の業務を覚えながら、ショートステイを含む個々の利用者の把握に努め、施設におけるケアマネジメントに取り組む事が出来た。

5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。→長期利用者の入退院等があったが、ショートステイを含めケアプラン作成は滞りなく作成出来た。

6-1. 収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。→ケアプラン作成に係る書類や手順の見直しを図り、時間や手順、経費削減に繋げる事が出来た。

### (4) 介護職員総括

#### 【介護主任】

1-1. 利用者の日常生活に安心感が得られるよう、危険因子を除去するための予防策を講じ、リスク低減に努めることで安全性を確保する。→年間を通して勉強会を実施。各ユニットで予防処置を立案し、実施。

1-2. 他職種間の連携・情報共有の大切さ・アセスメント力の向上を行うことで利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。→昼ミーティングを活用し、他職種で情報共有を実施。「なんでもノート」のデータ化を活用し、2階・3階共に情報交換することが出来た。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルの見直しを都度行い、感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→特養の部署内で感染対策委員会を開催し、現場職員からの声を吸い上げ、写真や文章等を用いて特養で出来る感染対策を講じた。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に対応し、利用者にとって温かな日常生活の提供が保持出来るよう努める。→利用者が家族と対面出来ないストレスの軽減は課題であるが、感染対策を意識しながら、各ユニットと共に四季折々の行事計画を計画し実行することが出来た。

3-1. 千鳥会の取り組みを多用な手段を活用し発信することに努める。→情勢に応じながら発信することが出来た。

4-1. 各々の役職が責任を自覚して主軸となり、人材育成・組織風土作りに努める。→各ユニット共



に、リーダー・サブリーダーが自覚をもち、各ユニットの職員への気配り、配慮、業務の効率、利用者へのケアに取り組むよう、よく連携を図り十分な対応をしてくれる人材となっている。

4-2. 明確な目標をもち、個々のスキル向上を目指し、個人目標、教育計画等を活用しながら、達成に向けた支援に取り組む。→各々の個人目標の確認、意識付けの声かけを行うことが出来た。また、勉強会の講師の相談役になって、勉強会の内容を確認、アドバイスをを行い、職員個々のスキル向上に努めた。

5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。  
→科学的介護推進体制加算 I など LIFE に関する加算を新たに算定するにあたり、加算の算定要件や仕組み、ほのぼのソフトへの入力の方などを職員に周知し、加算取得に繋げた。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率の確保に努める。→前年度からの課題のおむつ代のコスト意識はもちろん、新たに物品係を今年度作ったことにより、様々なコスト意識が芽生えた。

### 【2階ユニット】

1-1. 利用者の生活の安心、安全を追求し、サービスの向上、リスクの低減に努める。→会議等で他職種との話し合いを行う中で危険予測を行い、リスク低減に繋げる事で、利用者が安心して生活できるように努めた。

1-2. 1-2. 他職種との連携を意識し、利用者個々の想いを汲み取り、アセスメントの向上、QOLを高める。→コロナ過などもあり利用者の想いを汲み取ったケアにつなげることが出来なかった。

2-1. 都度感染対策マニュアルを見直し、情勢等に対応した対策の徹底を図り、安心安全な生活環境を支える。→フロアや全体での感染対策や環境づくりなど行うことが出来た。

2-2. 新しい様式を取り入れながら、新しいサービス等に取り組み、利用者の生活の充実を図る。  
→コロナ過でのサービスやケアの見直し、発信なども意識して行うことが出来た。

3-1. 千鳥会の施設での取り組みを外部などに発信し、魅力を伝えるように努める。  
→インスタグラムなど施設内での取り組みなど魅力を発信することが出来た。

4-1. 役職の役割をしっかりと認識し、専門職の視点で指摘、スキルアップし合える組織作りを目指す。→各係や委員会などを通じてスキルアップに努め職員間で指摘し合えるような環境作りに努めた。

4-2. 個人目標や教育計画を通して各職員が明確なビジョンを持って、スキル向上やフォローアップに努める。→都度個人目標の遅れがないか確認して達成度なども意識した目標や実施が出来ているかアドバイスやフォローアップを行った。

5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。  
→職員個人が加算を意識したケアやサービスなど行えるような環境作りに努めた。

6-1. 職員一人一人が数値化やデータ収集を意識し、稼働率、経費削減に努める。→オムツやパットなど備品などの経費削減を意識して職員間でデータ収集を行い数値の見える化を行った。

### 【3階ユニット】

1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減に努める。  
→危険予測を行いリスク低減に繋げる事で、利用者が安心して生活できるように努めた。

1-2. 1-2. 他職種との連携と情報共有を行い、またアセスメント力を向上する事で利用者の個々のニ

ーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。→利用者の個々のニーズを意識する事で、ケアプランの目標や注意する点を職員全体で話し合い、生活の質の向上に努めた。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。→新型コロナウイルスでは変異株によつての感染症対応に変化があり、都度確認して行く。感染症防止マニュアルの更新や呼びかけを都度実施した。

2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できるように努める。→感染症防止の為、クッキングレク等はほとんどできなかつたが、時間を見つけて利用者の好みに合わせたレクリエーションが実施できるように努めた。

3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。→インスタグラムで情報を発信している。出勤人数が不足している時もあり、情報発信を一旦停止する事もあつた。

4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。→係や委員会だけでなく、職員同士で意見交換を行う。専門的知識・技術のスキルアップは、職員同士で話し合う機会が少なく、なかなか進まなかつた。

4-2. 明確な目標を持ち、また計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。→昨年度に引き続き、施設内の勉強会はレポートで個人学習する機会があつた。

5-1. 2021年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

→職員個々で加算を意識し、加算取得に向けて実行できた。

6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。→ペーパーレスと介護主任、ケアマネ、相談員らとの情報共有にもつながらるように業務連絡をパソコンで実施する。オムツの発注数を数値化する事で情報収集し、経費削減に努めた。

## (5) 看護部総括

1-1 利用者の安全・安心な生活を守るため、起こりうるリスクを認識し、事故の予防につなげる。

→内服薬のアクシデントが数件続いた。確認作業を徹底し事故予防につなげたい。

1-2 他職種間の連携・情報共有を重視し、利用者一人ひとりのニーズの尊重、生活の質の向上に取り組む。→看護連絡票、受診記録を改善し、情報共有に活用できている。血液検査、体重測定、胸部レントゲン撮影、嘱託医の回診にて、利用者の健康状態を把握し、一人一人の状態に合わせた処方、看護を行い生活の質向上に役立てることが出来た。

2-1 感染症に対する正しい知識の習得、自身の健康管理、感染防止マニュアルを見直し、感染対策の徹底を図り、利用者の安全・安心な生活環境を支える。→インフルエンザワクチン接種、新型コロナワクチン接種を利用者・職員へ実施、毎日の体温測定、体調観察にて感染の早期発見に努めた。また、マスク着用、手洗い、手指消毒、環境整備、人との密接な接触を避ける等、感染症予防に取り組み、施設内での感染は起こらなかつた。

2-2 新しい生活様式を取り入れた施設での生活の中に、利用者にとって、喜びや楽しみ、生きがいを感じられる生活環境の提供に努める。→感染予防を行ったうえで、レクリエーション等を行っていたが、ストレスを感じる利用者も多くいる。喜びや生きがいを感じられる生活を提供できるよう、今後も取り組んでいきたい。

4-2 個々のスキル向上に対して明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。→毎月の勉強会での学びが、日々の業務に生かせていなかつた部分もあるため、スキル向上のための目標設定、達成に

取り組んでいきたい。

5-1 介護保険制度についての理解を深める。→介護保険制度について、勉強会での資料を参考に知識を深められるよう取り組んだ。

6-1 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。また、適切な在庫管理を行い経費削減を目指す。→メディカルの物品配置の変更等、職場環境を改善した。また、在庫管理を適切に行うことで、経費削減する事が出来た。

#### (6) 管理栄養士総括

1-1. 食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、利用者や委託会社の調理業務に支障が発生しないようにする。→利用者等、食事提供に支障がでるようなことはなかったが、厨房機器の故障があり、委託会社職員に調整してもらった。

1-2. 利用者、家族と関わる際には、その人らしい生活を継続する為の情報を収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。→家族から利用者のことを主にカンファレンスで聞くことができ、少しだが利用者対応に反映することができた。

1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を選定、3日間耐えることを想定とした備蓄食品を用意する。→食卓委員会でサンプルを試食してもらい、利用者にあった備蓄食品を決めることができ、施設内に備蓄している。

2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけるような献立作成に努める。→嗜好調査や、食事時間の観察などから、聞き取りでき献立に反映している。

3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。→クッキングレクはあまりできなかったが、厨房から提供した行事食等を利用者と共にSNSに上げて発信できた。

4-1. 5-1. 職員間の情報交換・共有に努め、福祉制度の知識や栄養等のスキル向上を目指す。

→外部研修もリモートで研修に参加することができた。

6-1. 安心安全な食事提供を維持しつつ、安定した食材管理と無駄を無くし、経費削減に努める。

→食材高騰したが、利用者が少ない時は、食数を減らすことで無駄に仕入れることなく、野菜が安定していたこともあり、安定した管理ができた。

#### (7) 地域支援事業総括

##### 【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

できるだけ住み慣れた地域で自分の力で、活動的な生涯を送りたいという願いを現実のものとするために、要介護、要支援状態になる前から、一人ひとりの状態に応じた予防対策を図るとともに、要介護状態になった場合においても、地域で自立した日常生活を送ることを目的として地域支援事業が実施されます。地域支援事業は介護サービスや、介護予防サービスと並び、介護保険制度の3つの柱の一つとして考えています。2020年度以降は新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防対策を徹底した上での実施となり、新しい生活様式を取り入れた取り組みを行いました。

2014年度から開始したふれあいの集い・ちどりは、利用者が主体となり、プログラムを決め、そのプログラムが実現できるようにサポートしてきました。また、介護認定を受けられた場合、速やかに必要な支援へと繋げられるよう取り組みを行いました。

配食サービスでは、お弁当を専任職員が配達するという事で安心感を持って利用頂き、またお

弁当を配達するだけでなく安否確認、コミュニケーションを図ることができ、家族との情報共有等も行っています。

2018年2月23日よりローソン東浦浦店内にケアローソンとして介護相談窓口を開設しました。介護支援専門員等の相談員が常駐し、介護相談援助業務を行い、必要時は、行政機関、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、担当介護支援専門員、事業所等に情報伝達、共有を行い、問題解決ができるように支援しました。

今後、社会福祉法人としてどのように地域貢献を行って行くのかが使命であるが、高齢であっても、障害があっても、地域住民として住み慣れた地域でできる限り安心して尊厳あるその人らしい生活を継続することを支援していきます。また、サロン活動、広報活動等を積極的に行い、地域の方が気軽に集える居場所の1つになれるよう取り組みたいと思います。

## 2022年度 千鳥会ゴールド 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 地域との関係の継続
3. 地域における公益的な取り組みの推進
4. 人材確保に向けた取り組みの強化
5. 人材定着に向けた取り組みの強化
6. 人材育成
7. 健全な財務規律の確立

- 1-1. サービスの「安全性」と「安心感」を高めるために、積極的に予防処置を立案し事故防止に努める。
- 1-2. 利用者一人ひとりのニーズと意識を尊重し、可能性の実現と生活の質の向上に努める。
- 1-3. BCP(事業継続計画)を策定し、大規模災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。
- 2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得、感染の恐怖に負けることなく、自信と誇りを持ち業務に臨む。
- 2-2. 新しい生活様式を取入れながらも、視点を変え、新たな気持ちで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。
- 3-1. 施設の魅力・提供するサービス内容・等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。
- 4-1. 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。
- 4-2. 明確な目標管理(理解と合意に基づく目標設定)及び、達成に向けた支援に努める。
- 5-1. 法令を遵守し加算取得に努めることにより、更なる高品質なサービス提供を目指す。
- 6-1. 稼働率向上・経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入を確保する。
- 6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し、透明性の高い財務管理の実施に努める。

### (1) 特養部方針・計画

- 1-1. 利用者個々に起こりうる危険を認識し、原因究明・対策・予防処置を立案し、サービスの安全性・安心感の向上、リスク低減に努めていく。

1-2. 他職種間の連携・情報共有の強化、アセスメント力の向上により、利用者個々のニーズを汲み取り、ニーズの実現、生活の質の向上に取り組む。

1-3、2-1. 実務に即した感染防止・災害時マニュアルの見直し、シミュレーション・訓練の実施を通じて、安全・安心な生活環境を支える。

2-2. 新しい生活様式に合った新たなサービスの構築を行うことで、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。

3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。

4-1. 主任・リーダー、サブリーダー等、正規職員、準職員、非正規職員の業務・役割の分担化を明確にしていくことで、人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。

5-1. 2021年度の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 職員配置・業務内容の見直し、数値化できるものは数値で表すことで、経費削減・安定した稼働率が意識しやすいよう努めていく。

## (2) 事務職員方針・計画

2-1. 安全・安心な生活環境を整えつつ感染対策をしながら日々の業務に努める。

2-2. 新しい生活様式を取り入れながら他部署と連携し環境整備に努める。

3-1. 施設の魅力や提供するサービス内容をいち早く発信をし千鳥会の良さをアピールする為様々なSNSを使い情報発信を行うように努める。

5-1. 2021年度介護報酬改定に伴い内容を把握し適正な加算取得するための情報収集に努め生活相談員と相談しつつ収入の確保に努める。

6-1. 安定した施設運営に向け各部署と連携し経費削減に努め適正な収入の確保に努める。

6-2. 経営状況と財務状況を正確に把握し予算執行率を毎月確認し財務管理に努める。

## (3) 介護支援専門員方針・計画

1-1. 発生するインシデントやアクシデントにおいて、原因究明を細かく行うことで再発防止・リスク軽減を図る。

1-2. 他職種と連携・情報共有し、利用者のサービスの実現・生活の質の向上が図れるケアプランが作成できるよう努める。

1-3、2-1. 施設に感染源を“持ち込まない”ように、最新の感染対策を常に意識する。災害時訓練についても感染予防を図りながら、有事の際に対応できる環境を整えておく。

2-2. 利用者が日々喜びを感じられる環境提供ができるサービスを立案する。

3-1. フェイスブックやおたよりを活用し、千鳥会の取り組みや魅力を発信する。

4-1. ケアプラン作成における他職種協働が円滑に図れるための取り組みを構築する。

4-2. 明確な評価ができる活動計画の設定と、結果や評価を考察して次の目標達成に向け意識の向上を図る。

5-1. 法令遵守に沿った体制づくりと加算取得に努める。

6-1. 業務の見直しを図ると共に収益に対して意識を持ち、安定した稼働率と経費削減に努める。

## (4) 介護職員方針・計画

### 【2階ユニット】

1-1 ヒヤリハットだけではなく、アクシデントに繋がる小さな原因などを見極める目を養い、リス

ク低減に努める。

1-2 他職種間の情報交換をしっかりと行い、利用者個々のニーズに沿ったサービスを提供する。

1-3 日々変化する感染対策や災害マニュアルを、リアルタイムにシミュレーションを行い改善に努める。

2-2 新しい生活様式を様々なケアに落とし込み、新しいサービスの提案を行い利用者が安心できる環境づくりを行う。

3-1 施設での生活やイベントなど外部に発信をして魅力をしっかりと PR する。

4-1 職員個々で自分の役割や専門性を意識した仕組みや職場作りを行う。

4-2 個人目標を通じてスキルアップや、やりがいを明確に持ってもらうように支援に努める。

6-1 職員個々で業務改善などを対案し、稼働率の安定や経費削減に務める。

### 【3 階ユニット】

1-1. 利用者が生活で安心して生活できるように危険予測を行い、リスクの低減・予防に努める。

1-2. 1-2. 他職種との連携との情報共有、アセスメント力の向上を図る事で、利用者の個々のニーズを意識・尊重し、生活の質の向上に努める。

2-1. 情勢に応じた感染防止マニュアルにて感染対策の徹底を図り、安全・安心な生活環境を支える。

2-2. 新しい生活様式を取り入れたサービス等に取り組み、利用者が穏やかに日々生活できるように努める。

3-1. ユニットでの取り組みを外部に発信し、千鳥会の魅力を伝えるように努める。

4-1. 役割を認識し、専門的な知識・技術をスキルアップし合える環境作りに努める。

4-2. 明確な目標を持ち、計画的にスキル向上を目指し、個人目標や教育計画等を活用して支援する。

5-1. 2021 年の介護保険制度改正の内容を理解した上で適切な体制を整え、加算取得に繋げる。

6-1. 業務内容の見直し、数値化やデータ収集を意識し、経費削減に努める。

### (5) 看護部方針・計画

1-1. 利用者の情報収集、情報共有を図り、起こりうる危険を予測する事ができ、原因究明・対策の立案ができるように努める。また、家族へ日々の利用者の状況を伝えることで、信頼関係を築き、サービスの安全性・安心感の向上を図る。

1-2. 他職種間の連携・情報収集・情報共有を重視し、利用者個々のニーズの尊重・実現・生活の質の向上に取り組む。

1-3・2-1. 自身の健康管理、感染予防意識をしっかりと持ち、施設業務に即した感染対策を実施する事で、利用者の安全・安心な生活環境を支える。

2-2. 新しい生活様式での施設生活に、利用者が喜びや楽しみ・生きがいを感じられる生活環境の提供に取り組む。

4-2. スキル向上に向けて明確な目標を設定し、達成に向けて取り組む。

6-1. 働きやすい環境作り、業務内容の見直しに取り組む。適切な在庫管理、使用物品の無駄を無くし、経費削減を目指す。

### (6) 管理栄養士方針・計画

1-1 委託職員と連携し、食材発注忘れや厨房機器の異変を早めに気付き、利用者や委託会社の調理業務に支障が出ない危機管理に努める。

1-2. その人らしい生活を継続する為の情報を利用者や家族と関わる時など収集できるような関係を築き、食事等に反映していく。

1-3. 災害、食中毒が発生しても、加熱調理や水を使わないで提供できる食品を備蓄しているが、緊急事態発生時に職員が使えるようにする。

2-2. 利用者が好む献立や希望する内容に近づけ、飽きない献立作成に努める。

3-1. ユニットで行う調理レク時、厨房が関わる際、スムーズに連携できるよう段取りし、SNS等に発信できるよう協力する。

4-1. 5-1. 多職種（委託会社職員含む）の情報交換・共有に努め、知識や栄養等のスキル向上を目指し、制度に遵守した業務を行う。

6-1. 食材高騰の中でも質の安定に努め、食材管理の無駄を無くし、安心安全な食事提供を維持する。

#### (7) 地域支援事業方針・計画

##### 【地域サポート施設の活動（兵庫県認可事業）】

###### 「地域見守り事業」

地域住民が住み慣れた場所で安心して生活ができるように、特養の機能を活かした拠点づくり、地域支援（地域貢献）事業、地域見守り事業を展開する。

「目標値」 毎月登録者 10 名

###### 「ふれあいの集い」

住み慣れた環境、地域での生活をできるだけ維持していけるように支援していく。また、利用者の心身の状況を把握し、早期発見、相談援助を行い、利用者が自立した生活を送れるように支援をしていく。自宅付近と施設間の送迎を行い、必要時は買い物支援、外出支援を通して楽しみを持っていただき、閉じこもりの予防、馴染みの関係を大切にしながら、生きがいのある人生を送れるようにします。利用者の状態変化、必要に応じて各関係機関と連携しスムーズなサービス提供に繋げて行けるよう支援します。

「目標値」 1年間の延べ利用者数 100 名

###### 「配食サービス」

利用者が住み慣れた地域での生活が維持できるように支援していく。また、配食サービスを通して、利用者の心身の状況等についても確認し、必要時は関連機関と連携を図り、地域支援サービス、見守りの充実を図る。

「目標値」 1年間の延べ配食数 3000 食

###### 「介護相談窓口」

##### 【事業目的】

地域の高齢者、又はその家族に対し、様々な相談に応じ、そのニーズに対応した相談援助を行い、必要時には各関係機関との連絡調整を行い問題解決に努めることを目的とします。また、サロン活動等を通して地域の方が気軽に集え、顔なじみの関係性ができ、必要時には相談援助ができる関係作りを目指します。

### 【運営方針】

(1) 地域の高齢者、又はその家族に対し、介護に関する相談に応じ、ニーズに対応した支援方法を助言します。

(2) 相談内容に応じて、各種の保健、医療、福祉サービスが受けられる様、関係機関に連絡調整します。

(3) 要援護高齢者等の生活機能の低下を予防するという観点から、サロン等を通して介護予防啓発に努めます。

### 【事業計画】

(1) 地域住民に的確な助言が行なえ、必要時には各関係機関と連携を取り、問題解決ができるよう責任をもって業務を行います。

(2) 地域の高齢者に気軽に相談していただけるような雰囲気作り、サロン等の開催を行い、啓発事業を展開、拡大することでインフォーマルサービスの活性化、地域力アップを目指していきます。

「目標値」 1年間の延べ相談件数 50件

## 津名デイサービスセンター

### (介護保険事業・介護予防日常生活支援総合事業)

#### 2021年度 総括

##### (1) デイサービス総括

1-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行い、安全に、安心してデイサービスを利用できるようにする。→連絡ファイルを活用し、伝達事項、アクシデント、アセスメント、日誌の情報を共有することができた。

1-2. 個々のニーズを把握し、利用者が主体的な活動、社会参加、生活の質の向上等が行えるサービス、プログラムを提供する。→個別ケアの充実を図り、利用者のQOLの向上に繋げられる取り組みができた。

1-3. 2-1. 感染対策マニュアル、災害時マニュアルの改訂、訓練等を通じて災害時にも対応できる体制づくりを行う。→新型コロナウイルスに対応したマニュアルの改訂、「新しい生活様式」の通常対応、規制対応の作成を行うことができた。

2-2. 新しい生活様式を取り入れた（三密の回避）サービス、活動の提供を行い、利用者満足を高める。→感染予防対策を実施した上で、安全に、楽しく利用できるプログラムの作成、サービス提供ができた。

3-1. SNSを活用し、積極的な情報発信を行うことで、法人、津名デイ、千鳥会ゴールド、千鳥会在介のブランド力向上に繋げる。→定期的にインスタグラムにて情報発信ができた。

4-1 専門職、役職者の各々の役割、業務を明確にし、チームケアの中で、組織力向上と、良好な人間関係構築に努める。→業務内容、専門職の役割などを明確にし、取り組みを行った。コロナの流



行もあり、会議の場を設ける機会が少なく、コミュニケーションが不十分なところもあったので、来年度は工夫をして実施したい。

4-2. コミュニケーションを重視し、個々の想い、活動、目標が、部署内で共有でき、利用者・職員満足向上に繋がるよう支援する。→部署内のコミュニケーションを重視し、想いが共有できるように取り組みを行った。今後も継続して取り組む必要性が高いと考える。

5-1. 介護報酬改定の情報を収集し、適切な運営ができるように努める。→制度改正に応じた対応ができた。新たな加算を取得することができた。

6-1. 選ばれる事業所作りを引き続き行い、サービスの向上、稼働率の向上を目標に取り組む。→デイ全体で稼働率の向上に向けての取り組みができた。

## (2) 生活相談員総括

1-1. 気づきを予防処置として取り上げ、情報共有することでリスク回避を図り、アクシデントを予防していく。→朝礼で伝達事項の確認、連絡ノートの活用を行い、アクシデントの対策を共有し、類似したアクシデント・インシデントの予防に努めた。

1-2. アセスメント力のスキルアップを目指し、個々のニーズを汲み取り、利用者が生き生きと活動できるサービスを考え提供する。→アセスメント力のアップを目指し、初回面接時だけでなく、送迎時などでも話やすい雰囲気を作心がけ、家族、本人の意向を聞き取れるようにコミュニケーションを図った。

2-2. 引き続き感染対策を行いながらも、利用者の声を聴き、新たな取り組みにも挑戦する。→新規利用者や家族に感染予防の取り組みの説明と同意を得ることが出来た。また新しい取り組みが行いやすくなるように介護リーダーと情報共有に努めた。

3-1. 6-1 日々の取り組みをデイ便りや SNS で発信できるように現場と協力する。また津名デイの強みや魅力を積極的にアピールすることで稼働率向上に繋げる。→取り組みや利用者の声を外部に発信し、魅力を伝えることができ、新規獲得に繋がり、毎月新規利用者を獲得することが出来た。

4-1. 4-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深める事で、他の職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるように努め、利用者の満足向上に繋げる。→感染予防でデイ会議が開催できないこともあり、少人数での会議を持ち、利用者の満足度が向上するようにリーダーや他職種と話し合いを行うことが出来た。

5-1. 介護報酬改定内容を正しく理解し、利用者家族へ説明、同意を適切に行う。→科学的介護推進体制加算算定に向けてご利用者ご家族、他事業に対して説明同意を行った。

## (3) 看護職員総括

1-2 他職種と相談し、インシデント・アクシデント・その他共有しなければいけない情報・個々が得た利用者のニーズや気持ちの共有方法を考え、対策や援助を実行することで、利用者にあったサービスやプログラムを提供する。→緊急事態宣言もあり、他職種と相談する機会も減ったが、連絡ノートの活用や分かりやすい記録を相談員日誌へ挙げる事で、情報共有の手段の1つとした。また利用者の体調に合わせて援助を行う時の指示を出せた。

1-3・2-1. 感染対策マニュアルを基にした勉強会を実施し、災害訓練などに参加することで、実際のイメージ作りを行い、他職種と連携した行動がとれるように話し合う。→感染対策のシミュレーションを実施し、実際のイメージ作りを行った。コロナ禍で勉強会が開催できない中、避難訓練を紙面

上で確認し、実際の時に行動できるよう参考にしたい。

2-2.・6-1. レクリエーション委員会を行い、3密回避が出来ているかを確認しながら、イベントを実施できるように他職種と連携し、計画立案・実施することで稼働率アップへとつなげる。

→レク委員会は開催せずに1年が過ぎた。只イベントは行っていたので、3密回避や換気などの対策を確認し、環境作りを心がけた。自粛や入院などもあり、稼働率アップまではいかないが、新規獲得出来ている点では良かったと思う。

#### (4) 介護職員総括

1-1. 利用者の情報やリスクを、職員、他職種と共有を図り、さらに安心して過ごせるよう、ルール開発に取り組む。また、インシデント・アクシデントの職員と共有し事故防止に努める。→相談員とコミュニケーションを図り、利用者の情報収集を行い、職員間で共有しインシデント等発生防止を行うことが出来た。

1-2. 4-2 利用者個々の情報や、普段のコミュニケーションから個々のニーズを把握して、津名デイサービスで生きがいや喜びを感じられるよう個々にあったサービスを提供する。→利用者のニーズに合うサービス(体操・ゲーム・個別レク)を提供し満足して頂けた。

2-2. 季節に合った行事や、普段のレクリエーションを新しい様式を取り入れた内容で行えるよう職員間で意識したサービスを提供し、利用者の満足度を高める。→季節のレクを他職員とともに考え、季節行事を利用者に楽しんで頂けた。

3-1. デイでの普段の様子や、イベントまた津名デイ独自の活動など SNS を活用し情報を発信してブランド力向上を図る。→インスタグラムを定期的に発信、津名デイ便りで、ここでの取り組みを外部に発信し津名デイのブランドを知ってもらう事ができた。

4-1. 多職種や各職員の役割分担を明確にし効率よく業務を図ることで、活動しやすい職場づくりに努める。→各職員の強みを生かして、サービス提供を行い、職員も楽しくレクなどすることができた。

6-1. 利用者が満足し、津名デイを選んでいただける雰囲気作りに努める。

→普段から、ご利用者となじみの関係を築き、津名デイサービスを選んでもらうことができた。

### 2022年度 事業計画

#### (1) デイサービス方針・計画

1-1. 2-1. リスク(事故・感染対策等)、クレームへの対応力、意識の向上に取り組み、安全、安心して利用できる事業作りを目指す。

1-2. 利用者ニーズに沿ったサービスの提供を目指し、利用者のADL、QOLの向上に取り組む。

1-3. BCP(事業継続計画)の計画、準備を行い、サービスの提供が継続できるようにする。

2-1. 2-2. 新しい生活様式を取り入れながら、安全、安心して利用できる生活環境の提供に努め、顧客満足向上に繋げる。

3-1. 施設の魅力・提供するサービス内容・等、積極的な情報発信に努め、法人のブランド力を高める。

4-1. 4-2 働きやすい職場環境の提供を目指し、職員間のコミュニケーションの充実、具体的な目標設定、方針の明確化、人材育成の構築に計画的に取り組む。

5-1. 法令を遵守した適切なサービスが継続的に提供できるようにする。

6-1. 事業計画、予算に沿った活動ができるように、稼働率の向上、経費削減に努め、安定した収入を確保する。

### (2) 生活相談員方針・計画

1-1.2-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行いリスク低減に努めていく。また利用者家族の声に向き合い、十分な説明を行う。

1-2. 個々のニーズを把握し、アセスメント力の向上を行うことで、利用者のADL・QOLの向上等が行えるサービスを提供していく。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に挑戦し、顧客満足度向上を目指す。

3-1. SNSを活用し、積極的に情報発信を行い、津名デイの取り組みや魅力を発信する。

4-14-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深めることで、ほかの職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるよう務め、個々が計画的に目標達成できるようにサポートする。

5-1 介護保険の理解を深め、適切なサービス提供を行う。

6-1 選ばれる事業所作りを行い、安定した稼働率を目指す。

### (3) 看護師方針・計画

1-1.2-1. リスクマネジメントの強化、情報共有を密に行いリスク低減に努めていく。また利用者家族の声に向き合い、十分な説明を行う。

1-2. 個々のニーズを把握し、アセスメント力の向上を行うことで、利用者のADL・QOLの向上等が行えるサービスを提供していく。

2-2. 新しい生活様式を取り入れ、新たな取り組みにも柔軟に挑戦し、顧客満足度向上を目指す。

3-1. SNSを活用し、積極的に情報発信を行い、津名デイの取り組みや魅力を発信する。

4-14-2 リーダーと主任の役割を明確にしていき、信頼関係を深めることで、ほかの職員が働きやすく意欲的に業務に取り組めるよう務め、個々が計画的に目標達成できるようにサポートする。

5-1 介護保険の理解を深め、適切なサービス提供を行う。

6-1 選ばれる事業所作りを行い、安定した稼働率を目指す。

### (4) 介護職員方針・計画

1-1 普段からリスクに対する意識を持ち、事故を防ぐ。その他に利用者のアセスメントも多職種と共有し、利用者が安心して過ごせる津名デイを目指す。

1-2 津名デイでどんなことをしたいか、利用者の普段の様子や会話から聴き取り、個々にあったレクリエーションなどのサービスに繋げて、ADLなどの向上に取り組む。

2-1 新しい生活様式の中で、出来るレクリエーションや行事を職員とともに企画を行い、顧客満足度に繋げる。

3-1 デイ便りや、インスタグラムなどを活用して、津名デイの魅力の情報発信を行い津名デイブランドを高める。

4-1 職員も輝ける現場にするため、レクリエーションなどで各職員の強みを最大限に発揮できるように、普段からコミュニケーションを取り業務の安定を図る。介護技術は解りやすく楽しく学び、津名デイの技術向上を図る。

6-1 津名デイを選んで頂けるよう、利用者個々のニーズを大切にして稼働率向上を目指し、安定した収入を確保する。

## 千鳥会在宅介護支援センター（居宅介護支援事業所）

### 2021 年度 総括

- 1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。  
→請求ミスに対し、請求の際の確認方法を検討し、確認内容を変更した。
- 1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。→アセスメントでニーズを把握する様に努め、出来る限り、生活の質、自立心が高まる様に計画を作成、実施した。
- 1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。→現在、旧町単位で災害に対するリスクや対応を検討中。感染症に対しては、コロナウイルスが流行していても、出来る限り生活の質が下がらない様に調整を行った。
- 2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。→気を緩めず、感染対策を行う事で滞り無く、業務を行う事ができた。
- 2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。→新しい生活様式の中でも利用者が喜びを感じながら生活が出来る様、計画を作成、実施した。
- 3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、積極的な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。→地域の会議等に参加し、地域に有用な情報の発信が行える様に努めた。
- 4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。→良好で温かい人間関係が醸成出来る様に風土づくりに努めた。
- 4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。→実現可能な目標管理を行ったが、サービス終了者や新規の利用者の数にバラつきがあり、変動がある実績となってしまった。
- 5-1. 2021 年度介護報酬改定法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。→入退院や通院同行に伴う加算を取得し、収入の安定に努めた。
- 6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。各事業所、サービスの稼働率についても把握する。→経費削減に努めた。また、各事業所の稼働率についても把握し、情報を共有した。

### 2022 年度 事業計画

- 1-1. サービスの「質」と「信頼性」を高めるために、予防処置を立案し、更なる改善に努める。
- 1-2. 利用者のニーズと意思を尊重し、利用者の生活の質の向上に努め、自立心も高める。
- 1-3. 利用者の災害リスクを把握し、災害や感染症などの緊急事態が発生してもサービスが提供出来るように努める。
- 2-1. 安全・安心な生活環境を支えるのが使命と心得つつ、気を緩めずにコロナウイルスへの感染対策を徹底し、業務に臨む。
- 2-2. 「新しい生活様式」を取入れながらも、視点を変え、利用者が日々喜びを感じられる環境提供に努める。
- 3-1. 各会議等で各事業所・提供するサービス内容等、有用な情報発信に努めることにより、法人のブランド力を高める。
- 4-1 良好で温かい人間関係を醸成するための人材育成、組織の仕組み、風土づくりに努める。

- 4-2. 実現可能な目標管理（理解と合意に基づく目標設定）及び、達成に向けた支援に努め、実績に繋げる。
- 5-1. 法令を遵守し加算取得に努めることにより、適正な収入を確保し、健全な運営を行う。
- 6-1. 経費削減に努めることにより、事業所運営に必要な安定した収入確保に努める。

## 千鳥会在宅介護支援センター（淡路市委託事業）

### 2021年度 総括

- 1-2. 利用者のニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ信頼関係を構築し住みなれた地域で在宅生活が継続できるよう支援していく。→個人、地域のニーズを把握し、必要な支援につなげることができた。
- 1-3. 2-1 防災や感染症について正しい知識を学びつつ情報収集を行い、行政や地域と協働しBCP策定に参画する→津名地域では行政や地域と協働しBCP策定に向け動き出すことができた。
- 2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築などを行い地域づくりを行う。→新たなインフォーマルサービスを発見し協働することで地域に啓発することができた。
- 3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。→コロナ禍で認知症サポーター養成講座の開催が少なかったが情報発信を積極的に行った。
- 6-1. 6-2. 経費削減を意識し適切な業務遂行を行い、適正な収益を確保する。→コロナ禍で会議等が中止になり、また訪問もしにくい状況となり適正な収益を確保することができなかった。

\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

### 2022年度 事業計画

- 1-2. 利用者ニーズを把握し介護保険制度、インフォーマルサービスを適切に提供しつつ、信頼関係を構築し住み慣れた地域で在宅生活が継続できるよう支援する。
- 1-3. 2-1. 防災や感染症についての正しい知識を学び、情報収集を行い、地域に啓発していく。また、地域や行政と協働しBCP策定に参画する。
- 2-2. 新しい生活様式に合う新たなインフォーマルサービスの構築等を行い地域づくりを行う。
- 3-1. 千鳥会の取り組みや魅力を外部に積極的に情報発信しPRに努める。
- 6-1. 6-2. 経費削減を意識し、業務内容を見直し、効率よく業務が遂行でき、安定な収益が確保できるようにする。

\*淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

## 家族介護教室・家族介護交流事業

### 2021年度 総括

家族介護者教室は実際に介護をしている方や介護に興味のある方を対象に、介護の知識や技術、介護者自身の健康管理、介護者同士の交流の場づくりなどに役立てていただけるよう配慮し、計画していましたが、緊急事態宣言、コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止せざるを得ない状況でした。

その中でも感染予防に留意しながら年間3回開催しました。

参加する事で今までの悩みの解決方法を見つけることができ、視野が広がったとの意見も聞かれ、意義ある家族介護教室を開催することができました。

今後も感染状況を見ながら開催し、在宅介護における不安や悩みが少しでも軽減できるよう、今後も様々な角度からの内容を提供していきたい。

### 2022年度 事業計画

家族介護教室及び家族交流事業においては以下の通りの内容を実施する。

感染症の状況により中止、回数減となる場合あり。

- (1) 座談会
- (2) 医療・健康
- (3) 作業療法、もの作り
- (4) 福祉用具
- (5) 施設見学
- (6) 実技
- (7) 終活、成年後見
- (8) 様々な介護保険サービスについての説明
- (9) その他

\*現在介護されている方だけでなく、一般に介護に興味のある方など、一緒になって勉強したり、情報交換を行い、高齢者介護についての話し合いが行えるような雰囲気作りを心がけ、多くの方が参加できるように努めます。

\*家族介護者交流事業は、介護者同士が交流を深めるとともに、心身ともにリフレッシュ出来る企画、計画をします。

## 高齢者住宅等安心確保事業（淡路市委託事業）

### 2021年度 総括

全世帯に定期的な訪問を週1回行う。独居者で体調不良等の訴えの方には、水分補給を促したり、受診を勧めたり、湿布を貼るなどで不安を取り除けるように臨機応変に対応した。全体的に単身者が多く、その中で認知症の出現により、介護認定が必要な方には、家族と連携し申請手続きを行い各サービスに繋ぐなど、他機関との情報共有、連携を行っています。また、高齢者夫婦世帯で、転倒を繰

り返している方にも介護保険認定の申請手続きを行い、他職種連携のもと住み慣れた自宅での生活が続けられるように支援しています。

住宅機器の不備に関しては緊急コールの多発報や、老朽化によるものなのか熱感知器や煙感知器の不具合が多くなり県や市に都度連絡し対応を行えた。

新型コロナウイルスの流行に伴い、自粛生活が続き「いきいき 100 歳体操」が中断されたままになっている。落ち着いたら再開予定にしている。

担当高齢者住宅では、長期入院、死去、施設入所、家族との同居による退去が多い反面、新規入居者は遅滞気味で空室の多い住宅があります。「今までに無かった入居者の空き室問題」についてもなかなか解決する気配がありません。

訪問、電話等での情報収集、状況把握、問題への気づき、改善が今まで以上に求められてきている。今後も入居者への定期的な安否確認を行い、課題については関係機関と連携し、日々の生活に不安が強い方には、在介、地域包括支援センター、社協、居宅介護支援事業所等と情報共有、連携を行い、自立した日常生活が送れるように努めたい。

## 2022 度 事業計画

高齢者住宅入居者が地域に於いて自立した日常生活を営める環境、相互支援が可能なコミュニティの形成。効果的な社会資源の利用による、高齢者住宅入居者の QOL の維持、向上。

1. 高齢者住宅入居者緊急時への 24 時間、365 日対応。

2. 行政、社協、介護支援専門員、地域住民等との情報交換による連携。

3. 生活援助員としての基本サービス、力量の向上。

・週 1 回以上の訪問もしくは電話での安否確認、相談、緊急時の対応の継続。

・入居者の介護、医療等に関する生活相談、情報提供を行う。

・入居者の生活上の問題点について行政、介護サービス事業所等の関係機関へ連絡し、適切な社会資源の利用や自立支援を促す。

・教育訓練・研修による生活援助員の力量の向上を図る。不足している資質を把握し、向上できるようにする。

・「気づき」を築く感性の強化の為の教育訓練・研修への参加。

・組織内の連携向上による、事業活動の円滑化に努める。

・コミュニケーションによる入居者との信頼関係の向上と、生活上の安心の確保に努める。

＊淡路市との委託契約の内容を基に取り組みを行う。

## 特別養護老人ホーム ゆうらぎ

### 2021年度 総括

ゆうらぎでは、ご利用者が安全に安心して生活が送られるように毎年事故減少に向けて取り組んでいます。現在では事故分析がスムーズに行えるように独自の分析・集計表を作成しています。2021年度については加齢による日常生活動作の低下もあり、重大事故が4件発生してしまいましたが、アクシデントの件数は減少しています。今後もリスクマネジメントを行い反復的に同じ事故を繰り返さないように、継続的に事故防止に力を入れていきます。

2021年度は「コロナ禍における家族との関わり」についての取り組みを掲げ、面会に来られないご家族への写真の送付やLINE等のSNSを活用した取り組みについて1年間を通し実施し普段のご利用者の生活の様子を発信することができたと思います。オンライン・リモートでの面会についても希望されるご家族への提供ができていますが、スマートフォン等のツールを持たないご家族へのリモート面会ができておらず今後の課題となっています。稼働率について上半期は安定していましたが、下半期につきましては老衰や体調急変による退所が相次いだことと、2月、3月には施設内でのコロナウイルス感染が発生し長期間のご利用者受け入れ中止により大幅に稼働率の低下し、施設運営について不安定な状況となっています。加算関係では、10月よりコロナ禍における収益確保として長期入所の方に科学的介護推進加算や栄養マネジメント強化加算を算定しました。加算の算定により収益確保につながったのではないかと思います。来年度についてもコロナウイルスの動向に左右される恐れがありますが、積極的なご利用者の受け入れを行い地域への貢献や収益の安定化に繋がりたいと思います。

### 2022年度 ゆうらぎ・北淡荘 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. 人材確保に向けた取り組みの強化
5. 人材定着に向けた取組の強化
6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
7. 組織統治(ガバナンス)の確立
8. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを織り込んだ目標を設定する。

1-1 法人開設30年、施設開設15年の記念行事となるイベントを開催する。

1-2 オンライン研修等で、介護技術や知識等の内部研修や外部研修への積極的な参加を行い、能力向上に努め、ケアの向上を図る。

1-3 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実させ、倫理意識を向上させる。

1-5 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。

2-1 コロナ禍において外出行事の自粛を行う中で、オンラインを活用した事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図り利用者満足度を高める。



- 2-2 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開していく。
- 2-3 各事業所において、緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を果たす。
- 3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し登録者数を増やす。
- 4-1 役職者としての自覚、責任、行動などの資質を向上させ、課長、主任・リーダー層の育成に取り組む。
- 5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を行い離職者を無くす。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 7-1 災害 BCP 計画策定における地域住民との共同防災訓練や福祉避難所等の取り決めを行い、BCP 計画を完成させる。
- 8-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。
- 8-2 各事業の稼働率の一層の向上や各種加算の確保に努め、安定的な収入を確保する。

## 2022 年度 事業計画

### (1) 部署別事業計画

#### (イ) 特養事業計画

- 1-1 コロナウイルス感染予防に留意しながら、地域を巻き込んだ記念行事を展開する。
- 1-2 内部、外部の研修について感染症の状況をみながら現地参加、リモート参加の検討を行い積極的な研修参加によりコロナ過においても学びの機会を失わないよう取り組みを行う。
- 1-3 感染症の予防対策を実施し、施設内での感染症蔓延を防止する。また定期的にマニュアルを見直し感染症が発生した際にも迅速に統一した対策が講じられるようにしていく。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントの研修を年間教育計画に盛り込み定期的な教育訓練により各職員への倫理意識の向上を目指す。
- 1-5 予防処置立案を会議等にて継続周知し各職員の予防の意識を高めることで重大アクシデント 0 件を目指す。
- 2-1 LINE 等、社会全体で普及しているアプリケーションを活用しリモートによる交促進に取り組む。
- 2-3 利用者のニーズを一早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していけるようにする。
- 3-1 行事实施後に LINE 等の SNS にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。
- 5-1 内部コミュニケーションを充実させ、各自目標をしっかりと見据え模範となる職員の育成を図る。
- 7-1 災害 BCP 計画についてゆうらぎ、北淡荘で協議を繰り返し施設内における BCP 計画の完成を目指す。
- 8-1 購入物品のコストオープン化を行い全職員がコストに対する意識を持てるよう取り組み不要な支出を避ける。
- 8-2 ショートステイの質を向上させ、選ばれることでショートステイ稼働率 100%以上(空床利用含む)を目指す。

#### (ロ) 事務職員事業計画

- 1-1 法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。
- 1-3 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指すとともに、感染対策の研修を年 1 回訓練を 2 回実施する。
- 1-4 ハラスメントの教育訓練を実施し、倫理意識を向上させる。
- 1-5 予防処置を徹底しアクシデント発生を減らす。
- 2-1 オンラインを活用した事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図るため環境整備を実施する。
- 3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し登録者数を増やす。
- 5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を行い離職者を無くす。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 7-1 災害 BCP 計画を完成させる。
- 8-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

(ハ) 生活相談員事業計画

- 1-1 コロナウイルス感染予防に留意しながら、利用者様や家族様を巻き込んだ記念行事の立案を目指す。
- 1-2 内部、外部の研修についてリモート参加等を感染状況を確認しながらその都度検討し、他施設の職員との勉強、意見交換の機会を持てるよう対応していく。
- 1-3 他職種・他施設連携により、感染症予防対策の意識を高め、感染症蔓延 0 件を目指す。
- 2-1 LINE 等を活用したリモートによる面会を促進しコロナ過により家族交流の機会が減少しないよう取り組みを行う。
- 2-3 日頃よりケアマネージャーとのコミュニケーションを円滑に図り、ご利用者の情報を迅速に察知することで困難事例にも対応していく。
- 7-1 災害 BCP 計画について他職種と協議しながら特養における対策の確立を目指す。
- 7-2 ショートステイの質を向上させ、選ばれる事でショートステイ稼働率 100%以上（空床利用含む）を目指す。

(ニ) 介護支援専門員事業計画

- 1-1 記念行事について、施設介護支援専門員からも積極的に立案し、地域を巻き込んだ内容を目指す。
- 1-3 ケアカンファレンスについて、感染症の予防に重点を置き、状況に応じリモート等も活用しながら利用者様や家族様のニーズ収集を目指す。
- 2-3 コロナ過において、家族や他職種が集まったの定期的な会議は難しい状況にありますが、本人、家族、他職種から出たニーズやケア内容を収集、調整しながら「人を大切にしたいケアプラン」の立案が適うよう取り組みを行っていく。
- 5-1 加算習得時のケアプラン反映について柔軟に対応できるようアプリケーションとの連携、調整を実施し、他職種に円滑なケアマネジメントの発信ができるよう取り組みを行っていく。
- 8-2 ショートステイ利用者への送迎サービスについて、生活相談員と業務を分担することにより、希望日時に送迎サービスが提供できるよう調整を行う。

(ホ) 介護職員事業計画

【1階フロア】

- 1-1 ご利用者の状態を考慮し、感染対策を徹底したうえで記念行事の計画、実施を目指す。
- 1-3 ショートご利用者の入退居時のマスク着用と手指消毒と職員の検温、就業前後の手指消毒の継続を行い、共有部分や手すりには1日2回消毒し感染症を防ぐ。マニュアルを定期的に見直し発生した場合は冷静かつその時の状況に応じた行動ができるように努める。
- 1-4 研修、勉強会だけでなく、マニュアルを見直すことで意識やケアの向上に努める。
- 1-5 予防処置の立案をフロア会議等で継続して伝え、業務内での気づきを高め事故予防に努めると共にアクシデントがあった際はミーティングや会議で対策は適切か話し合い職員間で周知し同じ事故が起こらないように取り組む。
- 2-1LINE やリモート観光（生配信）などを活用しコロナ化で外との交流が減少したご利用者へ楽しみを提供する。
- 8-2 ショートの余暇時間の有効活用を行い、ショートステイの質を高める。荷物の入れ忘れ0件を目指し、選んで頂けるショートステイを目指す。

### 【2階フロア】

- 1-1 入居者に負担がかからない範囲でコロナ過で行える行事計画・提案・実施を目指していく。
- 1-2 研修・勉強会等を通し新たな知識の習得に努めその知識を介護現場のアップデートに繋げるように努める。
- 1-3 各職員高い意識で感染症予防につとめ、感染予防対策の実施に努める。感染発生時には混乱が起こらないように各職員感染後対策の検討実施に努める。
- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメントの適切な知識の習得・理解をもって入居者様のケアに当たるように努めていく。
- 1-5 事故の予防に努め予防処置立案を行い事故の未然の防止を図る。事故発生時には速やかな報告と対策案の検討を行って行く。
- 2-3 入居者家族様のニーズの把握に努め事業所の質を高め各入居者個々に適したケアの提供を目指していく。
- 5-1 内部コミュニケーションを充実させ質の高いケアの実施が出来る職場環境の提案を行う。
- 8-1 物品購入の際は職員がコストに対する意識を持って不要な支出を避ける。

### 【3階フロア】

- 1-1 ご利用者の状態に合わせ、感染予防に配慮した記念行事を全体で検討し、提案実施を進める。
- 1-3 手指・接触しやすい部分への消毒を毎日2回以上行う。換気や加湿を行い、濃厚接触者とならないように、感染予防対策を実施継続する。状況が変われば都度対策などマニュアルを見直し、その状況にあった対策をする。
- 1-3 教育訓練後はその時だけでなく、会議などで定期的に振り返りなどを行い、意識向上に努める。
- 1-5 予防処置立案の呼びかけに合わせ、過去の事故の内容の確認や振り返りを行い、また事故対策のルール作りをし、重大事故0件、昨年度より、反復的に起きる事故の減少を目指す。
- 2-1LINE・ZOOM等ライブカメラの使用活用し、地域福祉事業所など連携し、出来る事を明確にし、外部との交流につなげていく。また行事や家族との交流時にも継続して行って行く。

#### (へ) 看護師事業計画

- 1-1 コロナ感染症の現在流行しているウイルスの型や流行度合い、流行地域などの把握をしっかりと

- 行っていく、その上で感染に気を付けながら出来る範囲で行事を行っていく。
- 1-2 感染状況を鑑みながら、リモートなどでの勉強会の参加を行っていく。
  - 1-3 職員自身が感染を持ち込まない、拡げない事についての重要性の認識や意識を高めていく。
  - 1-4 高齢者虐待・身体拘束・ハラスメントの勉強会を実施し、各職員の倫理意識を高めていく。
  - 1-5 会議やミーティングで業務を行う中で気が付いたヒヤリハットなどについて話し合い、予防意識を高めていく。
  - 2-1 3-1 行事实施後には、すぐに広報媒体等にて内外に情報発信しブランド力強化を図る。
  - 2-3 ご利用者のニーズを一早く察知し、事業所の質を高め、緊急・困難事例にも迅速に対応していただけるようにする
  - 5-1 自分自身に目標を掲げ、その目標を実現させる為に努力する事により、模範職員の育成を図る。
  - 7-1 コロナ感染という災害に対して施設全体として取り組んでいける為のBCP計画を作成していく。
  - 7-2 ショートステイを必要とされている方に対して、ショートステイを素早く提供出来る様に心掛けていく。
  - 8-1 物品を購入する際には、コスト意識を持って購入していく。

(ト) 管理栄養士事業計画

- 1-1 他職員と協力して、記念行事となるイベントに取り組み成功させる。
- 1-3 感染症に対する部署内勉強会を開催し（2回/年）集団感染ゼロを目指す。
- 1-4 ハラスメント対策指針を基に部署内勉強会を実施し、ハラスメント行為のない職場環境を目指す。
- 2-1 ご利用者の要望に応じた、食事（レクリエーションや行事食、リクエストメニュー）を提供し、満足度を高める。
- 5-1 部署内ミーティングにて、課題に対しての具体的な改善策を発言できる場をもち、問題解決に繋げると共に、職員同士の関係性の構築に繋げる。
- 8-1 価格交渉と商品の見直しを図り、適正な食事提供を目指す。
- 8-2. 管理栄養士は、多職種協同で、栄養強化マネジメント加算算定に取り組む。

(チ) 調理員事業計画

- 1-1 他職員と協力して、記念行事となるイベントに取り組み成功させる。
- 1-3 感染症に対する部署内勉強会を開催し（2回/年）集団感染ゼロを目指す。
- 1-4 ハラスメント対策指針を基に部署内勉強会を実施し、ハラスメント行為のない職場環境を目指す。
- 2-1 ご利用者の要望に応じた、食事（レクリエーションや行事食、リクエストメニュー）を提供し、満足度を高める。
- 5-1 部署内ミーティングにて、課題に対しての具体的な改善策を発言できる場をもち、問題解決に繋げると共に、職員同士の関係性の構築に繋げる。
- 6-1 就業規則を熟知し、規則違反者ゼロを目指す。

## ゆうらぎ デイサービスセンター

### 2021 年度 総括

2021 年度も新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でした。感染と重症化を予防するワクチンの開発で一時期は感染も減少しましたが、感染力の強い変異株の出現により、当事業所でもご利用者・職員に感染が発生し、デイサービスの受け入れの中止・人数の制限を行いました。また、併設の施設内で感染が拡大して職員が不足し、デイサービスの職員が応援で勤務しなければならない状況となり、半月以上デイサービスの運営を止めざる負えない事態になりました。その間に、体調不良で入院になった方、特養に入所された方も居られ、そして、特定の利用を1か月以上休止した影響もあり、稼働率が大幅に低下し、今までにない減収となりました。

来年度に向けては、大きな方針の転換として、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せないため、受け入れ定員を、60名から50名にし、密を避け、より一層、安全、安心な施設環境を整え、昨年度以上に落ち込んだ稼働率の向上を目指し取り組んでいきます。

### 2022 年度 事業計画

#### (1) 通所介護事業計画

1. コロナ禍が終息した暁には、法人開設30年、施設開設15年でもあり、記念行事を盛大に開催する。
2. 感染症予防と、事故防止に取り組み、ご利用者が安全、安心して利用できる環境を作る。
3. オンライン研修を含め、職員教育を充実させ、虐待、身体拘束、ハラスメントゼロの環境を作る。
4. オンラインを活用し、他の事業所、地域との交流を図り、コロナ禍での行事充実により、利用者満足度を高める。
5. ご利用者が楽しめる行事を企画し、SNSで情報を発信する事で、選ばれる施設となる。
6. 就業規則、法令の遵守を職員に周知し、安全、安心して働ける環境を作る。
7. 稼働率90%以上を目指す事と、加算の取得により、収益の向上を図る。

#### (イ) 生活相談員事業計画

1. 地域のケアマネージャーへ新規利用案内を行い、施設外からの利用者の数を増やしていきます。
2. 職員間のコミュニケーション力を向上させ、互いの持つ知識・能力を共有する事で、技術の向上・働きやすい職場環境の確保に努めていきます。
3. 新たな施策を模索する事により、一層の顧客満足度向上を実現させます。
4. 新たな加算取得に向けての情報収集を行い、取得できるものはしていきます。
5. 各種研修に参加して、相談員としての能力の向上を図ります。
6. 感染症マニュアルに沿って、感染症の予防に努めていきます。
7. 地域の福祉ニーズを把握し、現状の生活の中での問題点を探り在宅サービスの可能性を広げていきます。

#### (ロ) 看護師事業計画

1. 利用者の身体状況を把握し、日常における健康管理の維持、援助に努める。
2. 利用者の情報を他職種と共有し、感染症防止、事故防止に繋げるための環境整備に努める。
3. サービスのクオリティ向上を図る為、教育・研修に率先し取り組むと共に、外部研修にも積極的に取り組む。

4. 利用者の増加に伴う情報を収集し、利用者へのサービス向上を図る。
5. 急変時の対応が迅速に行えるよう必要物品の配置、対応方法の教育に努める。
6. 感染症へのご利用者・ご家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ。

(ハ) 介護職員事業計画

1. 利用者の身体状況を把握し、職員間で情報を共有し、事故防止につなげるための技術向上に努める。
2. あらゆる事故を予測し、危険因子となりうるものを取り除き、早期発見により事故を未然に防ぐように努める。
3. 緊急時にいかなる時も対応出来る様、知識・技術の向上を図ります。
4. 質の高いサービスを提供できるよう、利用者の個々のニーズを把握し適切な介護サービスを提供するとともに、職員の介護技術向上、情報共有に努め快適な生活環境を作ります。

## ゆうらぎ 訪問介護ステーション

### 2021 度 総括

昨年から続く新型コロナウイルスに対しての感染拡大しない、させない、持ち込まない、を合言葉に業務に取り組んでまいりました。また変異株が発生した時にはどのように対応していいのか迷いましたが、今までと同じように、「訪問時にウイルスを持ち込まない、受け取らない」をキーワードにさらに対策を行いました。今まで感染もなく訪問を続けることができたのは訪問介護員一人ひとりの対策の徹底だと思っております。最近ではご利用者のご家族が感染をしたとの報告があり、ご利用者宅に来ることができない、会うことができないと聞くようになりました。ご家族の援助がない、ヘルパーだけの訪問では不安や心配はありましたが何とか対応することが出来、お陰様で何事もなく今の生活を送ることが出来ました。引き続き継続をしていきます。そんな中でのリモートによる研修を実施しました。

今年度はご利用者が施設への入所や、軽費老人ホームの利用、ショートステイ（長期）を利用する方が多く、ご家族の長年の不安を安心にかえ、終の棲家となりうるような事業所としては利用の中止になるご利用者が多かったです。ご利用者の方々にも最後まで事業所としてご利用者やご家族への対応が取れたことは感謝の何ものかえがたい経験をさせていただきました。

来年度は、さらなる感染への意識の徹底、ご利用者一人ひとりの訪問内容を見直し、ご利用者とのかわり方や事業所としてどうあるべきか、どのような方法がいいのか倫理を学び意識を高めていきたいと考えています。

### 2022 年度 事業計画

1-2 職員の資質向上と職員倫理の徹底を図るために各種研修会の開催や外部研修（オンライン）に積極的に参加する。

⇒利用者ひとりひとりのサービスを見直す。サービスの質の向上にむけて、職場内研修及び、オンラインでの研修に積極的に参加し自己学習にも取り組む。

1-3 感染対策の徹底と感染予防を継続し、集団感染ゼロを目指す。

⇒1 ケアごとの手洗い、訪問前後の手洗い及び手指消毒の徹底、特に身体介護時のゴーグル（眼鏡）

マスク、手袋着用等で感染ゼロを目指します。

1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実し、倫理意識を持つ。  
⇒高齢者虐待、ハラスメント等の学習をし、訪問介護員としての倫理観を身につけ、意識の向上を目指す。

5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を目指す。

⇒アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整える。

## 養護老人ホーム北淡荘

### 2021 年度 総括

2021 年度も、新型コロナウイルスの影響を受ける 1 年となりました。コロナ感染症の減少と共に、職員・ご利用者とも以前のように安心した生活を取り戻せそうな時期がありましたが、年末から新たにオミクロン株の発生から瞬く間に、全国各地に感染者が爆発的に増えました。北淡荘も 2022 年 2 月にコロナ陽性者が出てから、大規模クラスターに襲われ、職員・ご利用者とも感染拡大が止まらなくなりました。職員が自宅待機等で慢性的な人員不足、日を迫うごとに感染者が増えていく一方で、北淡荘職員も疲弊していく中、他部署には応援職員を派遣して頂き、何とか現在では、2 階では新規感染者も出る事無く山を越えたように思います。過去の経験から感染対策には十分気をつけながらも、驚異的な感染力の強さに職員も翻弄されるばかりでした。2 月までは安定して稼働維持してきましたが、今回の件で大幅に稼働率の減少となった結果には残念に思います。

今回の北淡荘における大規模クラスターによる振り返りも予定しています。今後の課題・改善点など多くの意見交換を行い、この度の経験や改善策を講じて、ご利用者の安全確保、安心して北淡荘で生活が継続できるように来年度も取り組んでいきたいと思ひます。

### 2022 年度 北淡荘 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. 人材確保に向けた取り組みの強化
5. 人材定着に向けた取組の強化
6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
7. 組織統治(ガバナンス)の確立
8. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを織り込んだ目標を設定する。

1-1 法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。

1-2 オンライン研修等で、介護技術や知識等の内部研修や外部研修への積極的な参加を行い能力向上に努め、ケアの向上を図る。

1-3 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指す。

- 1-4 高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等のゼロ宣言。また、教育訓練を充実させ、倫理意識を向上させる。
- 1-5 予防処置の徹底し前年度より重大アクシデント発生を減らす。
- 2-1 コロナ渦において外出行事の自粛を行う中で、オンラインを活用した事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図り利用者満足度を高める。
- 2-2 事業所が有する人的・物的機能を活用し、事業所自ら又は地域の団体等と連携して、様々な地域貢献活動を積極的に展開していく。
- 2-3 各事業所において、緊急・困難ケースについて可能な限り受け入れるなど、セーフティネット機能を果たす。
- 3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し登録者数を増やす。
- 4-1 役職者としての自覚、責任、行動などの資質を向上させ、課長、主任・リーダー層の育成に取り組む。
- 5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を行い離職者を無くす。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 7-1 災害 BCP 計画策定における地域住民との共同防災訓練や福祉避難所等の取り決めを行い、BCP 計画を完成させる。
- 8-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。
- 8-2 各事業の稼働率の一層の向上や各種加算の確保に努め、安定的な収入を確保する。

## 2021 年度 事業計画

### (イ) 養護部署事業計画

- 1-1 法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。
- 1-2 内部研修の充実、外部研修への積極的な参加を行い、介護技術向上を目指し、ケアの統一を図る。
- 1-3 感染対策・感染予防の徹底、継続し、集団感染ゼロを目指す。
- 2-1 事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図るため、オンラインを活用しコロナ禍でも楽しめる行事を実施し、利用者満足度を高める。
- 4-1 役職者としてのマネジメント能力の向上を目指し、主任・副主任の資質向上・育成教育に取り組む。
- 5-1 職場内環境の向上を行い、内部コミュニケーションの活性化を図り、職員の定着率の向上を目指す。
- 7-1 災害 BCP 計画を完成させる。
- 7-2 養護老人ホームの月初充足率 100% (168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せて経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

### (ロ) 事務員事業計画

- 1-1 法人開設 30 年、施設開設 15 年の記念行事となるイベントを開催する。
- 1-3 感染対策の徹底と感染予防を継続し集団感染ゼロを目指すとともに、感染対策の研修を年 1 回訓練を 2 回実施する。
- 1-4 ハラスメントの教育訓練を実施し、倫理意識を向上させる。



- 1-5 予防処置を徹底しアクシデント発生を減らす。
- 2-1 オンラインを活用した事業所間交流、地域交流、行事等の充実を図るため環境整備を実施する。
- 3-1 SNS の情報等を適宜・的確に更新・修正し登録者数を増やす。
- 5-1 内部コミュニケーションの充実を図る取り組みを行い、職場内環境の向上を行い離職者を無くす。
- 6-1 就業規則、介護保険、労務関係、その他の規則、法令の周知徹底を行い、法令及び規則違反を無くす。
- 7-1 災害 BCP 計画を完成させる。
- 8-1 予算管理の徹底と適正かつ公正な支出管理を行う。

(ハ) 生活相談員事業計画

- 1-1 記念行事の実現に向けて、職員間で話合う機会を持ち、アイデアを出し合う。
- 1-2 内部研修・外部研修に積極的に参加し、相談援助のスキル向上に向けて取り組む。
- 2-1 オンラインを活用し、行事の幅を広げ、利用者満足度を高める。
- 5-1 話し合える・意見を言い合える、風通しの良い職場環境を目指し、職員定着率の向上に取り組む。
- 7-2 養護老人ホームの月初充足率 100% (168 名)、特定利用者の月初充足率 97% (58 名) を目指し併せて経費削減に取り組み、安定した収支状況を作る。

(ニ) 支援員事業計画

- 1-1 記念行事のイベント実施に向けて他部署・他職種と相談し実現に向けて取り組む。
- 1-2 積極的に研修に参加し、接遇を含めた介護技術の向上を目指し、質の高いサービス提供する。
- 1-3 感染対策の必要な知識を再確認し、感染が認められた場合にも適切な感染対策・感染予防を努めるように支援員全員に周知を図り、徹底する。
- 5-1 支援員全体が共通認識を持ち、課題等を明確にし、活発に意見交換・話し合えるような環境作りを行う。

(ホ) 看護師事業計画

- 1-1 他部署他職種と相談し、記念行事開催に向けて取り組む。
- 1-2 積極的に研修に参加し、看護師としての医療分野のスキルアップを目指す。
- 1-3 感染対策の主となり、職員への指導、感染対策徹底に向けて周知を図り、集団感染ゼロを目指す。
- 5-1 職場内環境を整え他職種との連携を図り、モチベーションが高まる職場になるよう個々に努めて行く。

(ヘ) 管理栄養士事業計画

- 1-1 他職員と協力して、記念行事となるイベントに取り組み成功させる。
- 1-3 感染症に対する部署内勉強会を開催し (2 回/年) 集団感染ゼロを目指す。
- 1-4 ハラスメント対策指針を基に部署内勉強会を実施し、ハラスメント行為のない職場環境を目指す。
- 2-1 ご利用者の要望に応じた、食事 (レクリエーションや行事食、リクエストメニュー) を提供し、満足度を高める。
- 5-1 部署内ミーティングにて、課題に対しての具体的な改善策を発言できる場をもち、問題解決に繋がると共に、職員同士の関係性の構築に繋げる。
- 8-1 価格交渉と商品の見直しを図り、適正な食事提供を目指す。

(ト) 調理員事業計画

- 1-1 他職員と協力して、記念行事となるイベントに取り組み成功させる。
- 1-3 感染症に対する部署内勉強会を開催し（2回/年）集団感染ゼロを目指す。
- 1-4 ハラスメント対策指針を基に部署内勉強会を実施し、ハラスメント行為のない職場環境を目指す。
- 2-1 ご利用者の要望に応じた、食事（レクリエーションや行事食、リクエストメニュー）を提供し、満足度を高める。
- 5-1 部署内ミーティングにて、課題に対しての具体的な改善策を発言できる場をもち、問題解決に繋げると共に、職員同士の関係性の構築に繋げる。
- 6-1 就業規則を熟知し、規則違反者ゼロを目指す

## 地域密着型特別養護老人ホームほほえみ

### 2021 年度 総括

開設から 10 年が経ち、2021 年度は

- \*新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う。
- \*施設（ご利用者）の情報発信の強化を行い、信頼関係の継続を図る。
- \*介護ロボットや ICT を導入し、CS・ES の向上を図る。
- \*安定的な収入の確保を図る。

を大きな目標として進めてきた。

『新型コロナウイルス対策の継続と感染状況を踏まえた適切な運営を行う』『施設（ご利用者）の情報発信の強化を行い、信頼関係の継続を図る』に関しては、兵庫県内や淡路島内、地域の感染状況や動向を把握し、その都度最善の判断を行いながらご利用者へのサービスが安心、安全な形で提供できるように努めた。ただ、施設の感染対策として面会制限や中止なども行う中でご利用者とご家族、また施設職員とご家族が関わる機会が減少したことで信頼関係や情報共有が希薄になっていくことを予防するために施設からの情報提供として行事や取り組みの様子を「LINE」や「HP」に掲載し、行事等の写真を毎月家族に送付しご利用者の状況等を伝えた。

『介護ロボットや ICT を導入し、CS・ES の向上を図る』に関しては、インカムシステムを導入し、部署内外とあらゆる場所、リアルタイムで連携や情報共有が行え、利用者対応の際には利用者の傍を離れずに応援や協力も要請でき、事故防止や早期発見等にも繋がっている。

『安定的な収入の確保を図る』については 4 月から 10 月までは長期入居者の入院もありながら、入院者の空床利用を短期入所利用者に繋げて稼働は維持できていたが、11 月頃より短期入所利用者のコロナ感染拡大等の影響により利用控えや中止、また体調不良等により入院も目立ち、長期入居者の入院も重なったことで稼働率の低下に繋がった。また、入院先でコロナ感染予防対策として PCR 検査や病室隔離などの対応が都度行われており入院日数自体が以前に比べ長期化した。そのような状況の中で経費の節約や節減を図り、無駄な支出を減らすように努めた。

2021 年度に関しては、2020 年度と同様にコロナ感染リスクと隣り合わせの 1 年であったが、その中でも利用者が安心、安全に過ごすことができ、また日常の中にも非日常を感じることが出来るよう

に外出や買い物、一時的ではあったがご家族との面会の機会も設けることができた。

今後も利用者、家族、職員共に感染予防を第一に考えたサービスや業務の見直し、改善を図りながら常に安心、安全なサービスの提供と地域や関係機関からも信頼、信用される施設運営が出来るよう努めて行きたい。

#### (1) 事務職員総括

①1-2 災害時のライフラインが停止した場合を想定した設備整備を行う

⇒補助金申請が不可となり、次年度での検討となった。

②2-2. 感染対策の為楽しみが減少しているご利用者の為に施設内で感染予防しながら行事・活動を計画する。

⇒淡路まつり・ハワイアンイベントやオンラインでの納涼祭を行うなど感染対策を行いながら、多数の行事を催した。

③3-1. LINE・Facebook での情報発信の更新継続を行い登録人数増やすと共に地域へのアピールとご家族への安心を届ける。

⇒定期的に LINE・Instagram 等により情報発信を行い、ご家族より喜びの声をいただいた。

④3-1. 千鳥会を知ってもらうことを目的に法人全体の情報発信ツールとして Instagram での発信し日々行い 1000 フォロアーを目指す

⇒1000 フォロアーを早期に達成した。

⑤3-1. 千鳥会ホームページをリニューアルし、地域や求職者へのアピールへと繋げる。

⇒千鳥会ホームページのアップを行えた。

⑥4-1. 業務改善やロボット・ICT に関しての情報を現場へ提供し、今後の介護体制の見直しの後押しをする

⇒補助金を活用し、インカムの導入を行い、業務改善とともに、感染予防としてのツールとし活用できた。

⑦4-1. 事務業務効率化の目的として事務の共有化を図る

⇒会計担当・人事管理業務の共有化・スキルアップのため、事務員の業務内容の変更等行った。

⑧5-1. 労働基準法を遵守する勤怠管理システムの新規整備を進める

⇒感染予防のため、開始が2ヶ月遅くなったが、9月より開始を目指し、システム設定を行いスタートできた。また就業規則のシフトの法人統一も同時に行い、今後のシフト変更時の簡略化を図った。

⑨5-1. ストレスチェック委託業者変更に伴う流れをスムーズに行い、職員のストレス管理を滞ることなく進める

⇒ストレスチェックは滞りなく完了した。変更委託業者により結果報告は高評価でした。

⑩6-2. 2021年度介護報酬改定の知識を高め、基づいた請求業務を行う。

⇒LIFE 加算にむけて、ほのぼのの入力方法等の講習会を開催した。

⑪7-1. 給与管理システムの移行の必要性を逆に経費削減、業務効率化へと繋げるための交渉やシステムの構築を行う

⇒システム移行に業務負担が伴う費用対効果として、システム業者と数十回打ち合わせ・交渉・設定を行い、導入後の経費削減と業務削減の両立を実現したうえで導入した。

⑫7-1. 会議等で予算執行状況の報告を行うことにより、月単位での管理と周知により安定的な運営

を図る。

⇒品質保証委員会にて執行状況等の情報周知を行い、決算へ向けての収益状態の報告を行い健全な運営を目指した。

### (2)(3) 生活相談員、介護支援専門員総括

①1-1. 各職員の取得可能な免許や資格獲得の推進と外部研修（オンライン含む）等の参加を通して職員の質の向上を図る。

⇒資格取得のための研修や講習等もコロナの影響により縮小傾向にあったが、外部研修やオンライン研修等も活用して資格取得を推進した。

②1-2. 災害時を想定した実践的な避難訓練や勉強会を行いながら、必要な環境整備や備品等の調達、調整を行う。

⇒施設全体、部署別、役職者等のレベルに合わせて避難訓練や勉強会、会議体での情報共有を行うとともに非常時の食料や調理器具、オムツ、生活用品などの備蓄品の準備を進めた。

③2-1. 感染状況を把握し、感染対策を講じながら関係機関やご利用者、ご家族と連携し施設内でのコロナ感染者ゼロを目指す。

⇒兵庫県内、淡路島内、施設周辺地域の感染状況の情報収集、把握を行いながら施設内においても感染対策の強化また緩和等調整しながら運営を行った。コロナ感染者は結果としてゼロであったが、今後の課題としては感染者ゼロを目指しながらも感染者が発生した時の措置を計画、実行できる体制を確立しておく必要がある。

④2-2. コロナ禍の状況を踏まえた上で3大行事（春祭り、日帰り旅行、敬老会）の実施と月行事や余暇活動の充実を図る。顧客満足度だけでなく、職員満足度の向上のための体制、組織の確立を目指す。

⇒3大行事は規模を縮小、感染対策を講じた上で行うことができたが、家族や地域住民等との交流は出来なかった。行事や余暇活動についても少人数での開催や外出やドライブ、近隣スーパーへの買い物も行い、感染等リスクの制限がありながらも達成できた。

⑤3-1. ご利用者や施設情報をご家族、関係機関に様々な方法で情報発信、共有できるネットワークやツールを構築していく。外部研修や介護ロボットやICTの展示会などにも積極的に参加し、業務改善や職場環境整備に活用する。

⇒「LINE」を活用しての行事、取り組みの報告を行った。また、利用中の様子を写真撮影し家族に毎月送付した。外部研修や介護ロボット等の展示会は感染予防のため、積極的に参加出来なかったが講師や業者を招いての研修や介護ロボット等の取扱い説明を受ける場を設けることができた。

⑥4-1. 費用対効果を評価した上で介護ロボットやICTの導入を行い、CSやESの向上に繋げる。

⇒インカムシステムの導入により、業務の効率化や職員間でリアルタイムでの情報共有、協力体制の強化を図ることができた。

⑦5-1. 業務内容、人員配置等の見直しやICTの導入を行い、効果的で心身ともに負担軽減に繋がる職場の環境整備を行う。

⇒組織体制を見直し、職員間の関わりや情報共有のための会議や面談の機会を増やした結果、業務の効率化や勤務時間の見直しも行い、ESの向上に繋がった。

⑧6-1. 事故報告書、アクシデント、インシデント報告書内容の分析結果をデータ化し、同様のアク

シデント発生の軽減を図る。

⇒毎月の報告書を数値化、分析し会議体にて報告、情報共有し再発防止に努めた。

⑨6-2. 介護報酬改定に伴い新たに算定可能なサービスの提供と加算取得を多職種連携にて行う。

⇒多職種連携にて「科学的介護推進体制加算」「栄養ケアマネジメント加算」の算定を行っている。

⑩7-1. 長期、短期の年間総稼働率『98.0以上』を達成する。

⇒結果的には目標総稼働率は達成できたが、上半期の平均稼働率は「99.5%」で下半期は「96.5%」となっており、安定した稼働が継続できなかつたため、改善に努めたい。

#### (4) 介護職員総括

① 1-1. コロナ禍でも参加可能な研修に参加、職員の取得可能な資格の把握。全体会議時に勉強会を実施し、知識や技術の共有に努める。

⇒コロナ禍で以前に比べると研修へ参加することは出来なかつたが、その中でも最小限度ではあるが、資格を取得した職員、リモートでの研修へ参加するなど出来たと思う。また全体会議の勉強会についても特養職員が主に個人で勉強し、講師としてしっかりと取り組めたと思います。

② 2-2. 状況に応じての季節行事の立案、余暇活動にレクリエーションを取り入れ、ご利用者の満足度の向上を図る。

⇒コロナ禍で密になる行事にはならないように工夫すると、その中でも四季を少しでも感じて頂ければと、職員一丸となり取り組めたと思う。その中でも、敬老会での花火大会、日帰り旅行代替行事の青空喫茶はご利用者にも大変喜んで頂けたと思うので、今後も職員ご利用者一緒に楽しんで頂ける行事の計画をしていきたい。

③ 3-1. 行事や余暇活動の写真を生活状況表にて送り、日頃の様子をご家族に伝える。それ以外の施設内の様子等も Facebook 等で情報発信に努める。

⇒コロナ禍でご家族と思うように会えない中で生活状況表を利用し日常生活の写真を送り、日頃の様子を必要に応じて電話で連絡を行い、ご家族へ伝えることができた。その他に SNS でも地域の方に施設内の近況を発信できた。

④ 4-1. 職員の意見やアンケート等を取り、必要なロボットの導入を検討していく。

⇒職員間で会議やミーティングの時間を使って意見交換を行い、ロボットの導入へ検討を行った。その中で眠りスキャンを導入する方向で話を進めていたが、業者と情報交換を行って行く中で、インカムを導入へ方向転換し、導入することが出来た。今後も職員ご利用者ともに負担を軽減していけるようなロボットの導入を検討していきたい。

⑤ 5-1. リーダー会議で業務の見直しを行い、職員の業務負担の把握。介護用品やロボット等を検討、職員負担の軽減に努める。

⇒会議の中でリーダー間で話し合いを行い、遅出勤務の時間の変更・パート職員の時間の変更を行い、時間外を削減したことにより、職員の負担が緩和した。また、介護用品やロボットに関しては必要に応じて導入できました。

⑥ 6-1. 両フロアーのアクシデント、インシデントの統計を取り、再発防止を図る。

⇒アクシデント、インシデント統計を取り、特養内で再発の防止に努めたが、しっかりと防止できたとは言い難い。月によってはインシデントがすくたかつた月もあるので、今後はもっと積極的にインシデントを上げ、未然に事故を防いでいきたい。

⑦ 6-2. 多職種連携し、取得可能な加算等を話し合って検討していく

⇒年間通して中々加算についての話し合いを行うことが出来なかった。今後はもっと加算等の細かい話も話し合いをし、少しでも把握していければと思います。

(5) 看護師総括

① 1-1. コロナ禍の中、外部研修が困難と予測される為、オンライン講義等を有効活用し質の向上を図る。

⇒オンラインでの研修に参加し、新型コロナウイルスの病原体の特徴・感染対策・インフルエンザ等との違いなど学び共有できた。

② 2-1. 新型コロナウイルス感染予防として、外部の医療機関と連携を図り、ワクチン接種等スムーズに対応できるよう進める。

⇒協力病院からの指導を受け、何度も計画書を練り、当日問題なくスムーズにワクチン接種が行えた。

③ 2-1. 感染対策の基礎知識を職員全体が理解し、日常からの感染予防周知、実行を目指す。

⇒会議等でスタンダードプリコーションの周知を行い、ご利用者の日常のマスク着用や手指消毒の習慣付けをした。

④ 4-1. 職員による全体的な口腔ケアの見直しと、口腔ケア困難事例に対しての取り組みを行い誤嚥性肺炎へのリスクの減少を図る。

⇒新型コロナウイルス感染の為、歯科衛生士の訪問も減少されたが、訪問時には看護・介護と双方で指導を受け、ケアと医療的観念からもリスクを回避するよう取り組めた。

⑤ 6-1. 過去のアクシデント・インシデントを2月に1回毎に再確認し同様のアクシデントを繰り返さないよう努める。

⇒定期的に過去のアクシデント等の見直しを行い、今回はインシデント増やし予防に努めた。

⑥ 7-1. 稼働率維持の為、疾病の早期発見と予防看護に努める。

⇒今年度、入院11名と前年度と比較し8名少なく、通院や入院せずに施設での対応のご利用者も増えたが、後半一気に入院者も増し、稼働率の低下がみられた。来年度も継続し予防看護に努める事とする。

(6) 管理栄養士、調理員総括

①1-1. ご利用者の身体、食事状況を把握し、個々のニーズに合わせた食環境を整えることでご利用者満足に繋げる。

⇒利用者の身体面や食事摂取状況を分析評価したうえで、個々にあった栄養量や食事形態、環境を整えた。

②1-1. 食材や献立の見直しを継続し安定した食事提供を行う。

⇒管理栄養士の作成した献立内容や食材量を調理職員が都度確認し、食事の質の維持向上を図った。

③1-2. 災害時に備え地域の他施設と情報共有し連携に努める。

⇒他施設との災害時等の給食支援訓練や給食関係の研修会に参加し、協力体制の確認や情報共有を行った。

④2-1. 災害時に安全に食事提供が出来るよう、定期的な備蓄・備品の整備とマニュアル等の確認を継続して行う。

⇒備蓄職員だけでなく、調理機器や紙皿等の食器類の準備、整備を継続して行った。

⑤2-1. 施設内衛生管理、調理従事者の個々の感染予防を徹底し、安全安心な食事提供を行う。  
⇒部署内での感染予防だけでなく、食材納品から食事提供までの感染予防策を講じ、安心安全な食事提供に努めた。

⑥3-1. ご利用者の楽しみとなる行事食を推進し、ご家族や地域の方々に必要な情報発信を行っていく。  
⇒行事食やイベント時の食事を記録に残し、SNS を使い情報発信を行った。また、ご当地メニュー等を計画し利用者が食事を見て楽しみ、食べて満足できるよう努めた。

⑦6-1. 異物混入等に留意し、ご利用者に美味しく召し上がって頂ける様、安全な食事提供を目指す。  
⇒結果として異物混入はなかったが、引き続きコロナ感染対策等も併せて、対策の継続や強化を進め、食事面でも安心、安全なサービスの提供に努める。

⑧7-1. 介護報酬改定による算定可能な新たな加算の取得準備を行い、栄養面でリスクのあるご利用者に対し、他職種連携でケアに努める。  
⇒「科学的介護推進加算」「栄養ケアマネジメント加算」を多職種共同にて算定を行っている。

⑨7-1. 備品等購入品の必要度や優先順位を精査し、適正なコスト管理に努める。  
⇒感染対策にかかる調理器具や消耗品を優先的に購入し、並行して備蓄食品の整備や食材の購入先の見直しを行い、質の向上や経費削減に努めた。

## 2022 年度 ほほえみ 事業方針

1. サービスの質の向上
2. 生活環境・利用者環境の向上
3. 信頼と協力を得るための情報発信
4. トータルな人材マネジメントの推進
5. 人材定着に向けた取り組みの強化
6. コンプライアンス(法令等遵守)の徹底
7. 健全な財務規律の確立

下記のテーマを盛り込んだ目標を設定する

- 1-1. 常に利用者・その周りにいる人の立場に立って良質かつ適切なサービスを提供する。そのためにもサービスの担い手である職員の質の向上を推進する。
- 2-1. 今後起こりうる想定される大災害・感染症に備え、BCP(事業継続計画)を策定しサービスが継続できるように体制を整えておく。
- 2-2. 可能な限り家庭的な環境を実現するための手段として、「居宅に近い環境」と「家庭での生活に近い日常」が実現されるよう工夫する。
- 2-3. 感染症の予防・拡大防止を視野に入れ、利用者が日々楽しみを感じられる活動の提供を行う。
- 3-1. 感染症の予防・拡大防止のため日常生活が制限されている中で、施設内の情報等をリアルタイムにご家族・地域等に発信していく。
- 4-1. 人口減少に伴い労働力人口が減少する中で、良質なサービスを効果的・効率的に提供していく為に、業務の見直し・ロボットや ICT といった先進的な技術を用いた業務を推進していくことを検討する。

- 5-1. 管理者、上司、部下、同僚間等それぞれの関係で、円滑で良好なコミュニケーションを取りながら業務を進める組織風土の推進。
- 5-2. 経営理念に基づく経営方針及び社会福祉関係法令を遵守し、公共的・公益的かつ信頼性の高い経営を行う。
- 6-1. 様々なリスクを回避するために、事故等を未然に防止するための具体的な取り組みを推進する。

## 2022年度 事業計画

### (イ) 事務職員事業計画

- ① 2-1 防災に関して職員訓練・教育にて知識を養い、災害時等のライフラインが停止した場合を想定した整備を検討する
- ② 2-3. 感染対策を考慮し、地域との交流も考慮した新しい行事・活動を提案・計画する。
- ③ 3-1. LINE・Instagramで情報発信を毎月行い、地域へのアピールとコロナ禍で面会が出来ないご家族に安心していただけるよう最新情報の発信を行う。
- ④ 4-1 介護現場の業務の効率化・人材不足のフォローが出来るICT・ロボット導入の推進を行っていく
- ⑤ 5-1 情報共有し、互いのコミュニケーションの充実を図り、働きやすい職場環境作りを行う
- ⑥ 5-2 会議等で予算執行状況の報告を行うことにより、月単位での管理と周知により安定的な運営を図る。
- ⑦ 1-1. 5-2 各種関係法令を学び、健全な施設運営にできる知識の向上を図る。
- ⑧ 5-2 新規事業開設に伴い、法運順守のもと準備を行っていく。

### (ロ) 生活相談員 (ハ) 介護支援専門員 事業計画

- ① 1-1. 適材適所の人員配置と安定した組織体制を確立し、統一、安定したご利用者主体のサービス提供に努める。
- ② 2-1. 水害、災害、感染症の3本柱に沿ったBCPを策定し勉強会や情報共有を行い、発生時には滞りなく業務遂行できる準備を行う。
- ③ 2-2. ご利用者個々の生活歴やニーズに沿った環境整備を行う。
- ④ 2-3. ご利用者個々の日常生活の充実と非日常の新しい行事や取り組みを図る。
- ⑤ 3-1. ご利用者、ご家族、地域からの信頼、信用が継続して得られるサービスの提供と適切な情報の発信を行う。
- ⑥ 4-1. 6-1. 人と介護ロボット(ICT)との融合を図り、人(職員)と人(利用者)との関わりや支援の強化と事故防止や早期発見に繋げる。
- ⑦ 5-1. 上司、部下、役職者関係なく、話し相談し合える機会を設け、風通しの良い職場になるよう努める。
- ⑧ 5-2. 感染症のリスクがある中でも継続的、安定したサービス(加算取得)の提供と稼働率を98%以上維持できるよう努める。

### (ニ) 介護職員方事業計画

- ① 1-1. 人員配置の上で職員の適性や個性を考慮し、相互に補い合う組織体制を目指し、ご利用者主体のサービス



- ② 2-1. 新型コロナに関するBCPの情報共有を職員間で行う。また他職種と連携を図り、勉強会を行える場を作り、発生した際に落ち着いて対応できるように事前準備を行う。提供に繋げる。
- ③ 2-2. ご利用者ごとの生活歴や背景を汲み上げ、それまでの生活と特養での生活が連続したものとなるように支援を行う。
- ④ 2-3. 余暇活動の充実を図り、四季を感じることでできる取り組みをし、ご利用者の満足度の向上に努める。
- ⑤ 3-1. コロナ禍でご家族と満足に会えない中で日々の近況の連絡、また地域への施設内の様子をSNS等の情報発信に努める。
- ⑥ 4-1. 6-1. 積極的に介護ロボット等を活用し、体力的な負担の軽減や介護時間の省力化を図り、空いた時間を利用者の支援や満足度向上のために充実を図る。
- ⑦ 5-1. ミーティングや会議外でも意見の拾い上げに努め、活発な意見交換の促進に努める。
- ⑧ 5-2. 稼働率維持の為に対策を徹底し、感染症のリスクの軽減に努める。

(ホ) 看護師事業計画

- ① 1-1. 資質向上を目指し、医療的な分野でのリモート等の勉強会の参加を積極的に行う。
- ② 2-1. 新型コロナ感染に関するBCPの勉強会を実施し、BCPに基づき業務が遂行できるように準備を行う。
- ③ 2-3. 感染状況や運営方針に合わせた最大限のご利用者の受け入れを行うと共に、感染拡大のリスクを最小限に抑えるような体制作りをする。
- ④ 3-1. ご利用者の健康状態、医療面での情報発信を都度行い、ご利用者とご家族の思いをケアに反映できるように努める。

(ヘ) 管理栄養士、調理員事業計画

- ① 2-1. 5-1. BCPに基づく食事提供について、勉強会や情報共有を行い、発生時には滞りなく業務遂行できる準備を行う。
- ② 1-1. 2-2. コロナ禍でも安心、安全、親しみのある食事（調理～配膳方法等も含め）を目指す。
- ③ 2-3. 3-1. コロナ禍でもご利用者との関わりや交流を図り、直接的に「ご利用者を知る」ことに努める。
- ④ 4-1. 5-2. 食材料、消耗品の物価上昇がある中でも食材料費 780 円/年以下を目指し、食事の質、量を落とさない。
- ⑤ 5-2. 6-1. 1年を通して「異物混入 0」を目指す。

## 千鳥会デイサービスセンターほほえみ

### 2021年度 総括

2021年度は昨年度と同様に通常規模、定員35名での運営となりました。1日の平均利用人数は26.4名で、昨年度から1日平均2名増加となりました。当初予算の目標値では1日平均27名を想定していましたが、予算通りではありませんが稼働率は徐々に増加しています。要因としましては、6月頃から新規相談件数が増加傾向にあり、利用者も休む事も少なくなっています。

緊急事態宣言時や蔓延防止重点措置法の期間も事業運営し、感染拡大防止の観点から感染対策を講じデイ利用者が安心して利用出来たからだと感じております。2022年2月にはデイ利用者、職員が新型コロナウイルスの陽性と診断され、感染拡大防止より10日間営業休止しました。感染者の発生により利用を休止される方もおり、2月の稼働率は下がってしまいましたが、新規の利用相談は現在も増加傾向にあるため、安心・安全に利用いただける環境を整えていきたいと思っております。

新入職員の教育環境についても継続して勤務出来るよう、職員間での連携・協力体制を整えていく必要あると感じています。

サービス面では、職員2名が介護職員初任者研修を受講し資格を取得したことにより、今まで以上に自信にも繋がり、介護技術の向上にも繋がっています。

コロナ禍による感染対策については、パーテーションの設置や三密の回避、定期的な換気やマスク着用の徹底に取り組み、行事やレクリエーション等も見直し実施してきましたが、感染者が発生したことにより、更なる感染対策の強化が必要と感じています。

その中でも、継続して行っている歩こう会では、コロナ禍が続いている中で、感染防止より外出を控えるご利用者が増えており、今後フレイルに陥ってしまうご利用者が出てきてしまうのではないかとの不安より、積極的に歩こう会への参加を呼びかけた事により、参加者も増えより一層のやりがいと意欲向上に繋がっています。

外部への情報発信については、広報誌やライン・フェイスブック・インスタ等の活用や新聞社への取材依頼を行い、事業所のことを多くの方に情報提供していくことを継続しています。

地域との交流については、コロナ禍の影響もあり直接的な交流は出来ませんでした。敬老会や節分行事等では近隣保育所とビデオレターやゲーム対決という形で交流を行いました。

2021年度に関しては、2020年度と同様にコロナ感染リスクと隣り合わせの1年でありましたが、その中でも利用者が安心、安全に過ごすことができ、また日常の中にも非日常を感じる事が出来るようサービス提供に努めてまいります。

今後も利用者、家族、職員共に感染予防を第一に考えたサービスや業務の見直し、改善を図りながら常に安心、安全なサービスの提供と地域や関係機関からも信頼、信用される施設運営が出来るよう努めて行きたい。

## 2022年度 事業計画

1-1 職員の資格取得や研修参加による質の向上を進め、利用者や家族の状況に応じたサービスの提供に努めます。

2-1 BCP計画の策定を行い、職員間に情報共有を行い発生時には対応出来る仕組み作り。

2-3 感染対策の継続、その中で利用者が楽しく過ごせる行事や取り組みを実施していく。

3-1 施設内行事や様子等をタイムライン・Facebook・広報誌等を活用して情報発信していく。

4-1 継続的な業務の見直し、改善を実施し、サービスの効率化を図り、ロボット等の先進的な術を用いることも検討していく。

5-1 ミーティングや会議等の話し合いの場にて意見を言い合いえる職場の環境作りに努める。

5-2 感染対策の継続する中で、目標稼働率の向上を目指す。

6-1 職員の気づき等をインシデント記録に残し、職員間で共有出来るよう徹底し、事故に繋がる可能性を取り除いていく。

(1) 生活相談員事業計画

- 1-1 各種研修に参加し、相談員としての能力の向上を図ります。
- 2-1 水害、災害時に沿ったBCPを策定し法人での情報共有を行い、発生時には業務遂行できる準備を行う。
- 4-1 職員間で話し合いをおこない、業務の改善や時短できるものを考え負担軽減に繋げる。
- 5-1 職員間のコミュニケーション力を向上させ、互いの持つ知識・能力を共有する事で、技術の向上・働きやすい環境の確保に努めていきます。
- 5-2 地域のケアマネージャーへの新規利用の案内を行い、施設外からのご利用者の数を増やしていきます。

(2) 看護師事業計画

- 1-1 サービスのクオリティ向上を図る為、看護師の質の向上を目的として、教育・研修に率先し取り組む。
- 2-3 ご利用者の健康状況を十分に把握し、日々の健康管理を支援し、感染対策を徹底する。
- 6-1 インシデント・予防処置を活用する事により、重大な事故・損失を未然に防ぎ、他触手の連携を充実し適切に行動する。

(3) 介護職員事業計画

- 1-1 ご利用者の身体状況を把握し、職員間で情報を共有し、事故防止につなげるための技術向上に努める。
- 6-1 あらゆる事故を予測し、危険因子となりうるものを取り除き、早期発見により事故を未然に防ぐように努める。
- 1-1・2-3・3-1 質の高いサービスを提供できるよう、ご利用者のニーズに答えていくとともに、職員間の技術向上、情報共有に努め快適な環境を作ります。

## 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ

### 2021年度 総括

今年度は、介護保険制度の改定があり基本報酬が改定となり、加算の算定要件が変更になったものもありましたが、昨年度と同様の加算要件となりました。2021年4月に管理者・計画作成担当者の異動がありましたが、ご利用者・ご家族、関係機関との信頼関係の構築とスムーズな連携による稼働率の安定に取り組みました。そのような状況下でも2021年度は相談ケースが多くあり、新規登録者は12名、年間を通しての月平均登録者数は27.7名となり、当初予算を上回る事が出来ました。また、新規相談者の受け入れに関して、入院者の登録利用枠を使用した受け入れを行う事により、可能な範囲で多くの方に利用してもらえよう調整を行いました。

小規模多機能の特性から、ご利用者のニーズに応じた柔軟な対応が必要となりますので、日々の申し送りや会議体の中では、状態変化を共有し各職員からの意見を聴取しご利用者ひとり一人に応じたケアを提供出来るように取り組みました。認知症ケアに関しては、個別の取組に関して

定期的な評価を行うことで、状態変化の把握にも繋げていきました。

防災に関しては、コロナ禍により施設全体での避難訓練は実施出来ませんでした。部署内での避難誘導や初期消火への対応を共有し災害時に備えました。独居のご利用者については、地震や台風時には電話連絡や訪問により安否確認を行い、必要に応じて通いや泊りを追加しながら対応しています。災害時にあっても、職員の出勤状況に応じてご利用者へのサービスが続ける事が出来るよう、事業継続計画【BCP】を策定していきたいと思ひます。

感染対策については、新型コロナウイルスの感染拡大により、関係者の中に陽性者や濃厚接触者となったケースもありましたが、ご利用者の中で陽性者は出ませんでした。感染対策を継続していく中で、外出や外食行事は実施出来ませんでした。事業所内での行事を充実させることで、ご利用者の皆様に季節を感じながら楽しく過ごしていただくことが出来たと思ひます。

また、事業所内への面会等の制限により、SNSを通じて行事や事業所内の様子を情報発信することで、ご家族や地域の方にも事業所を身近に感じていただけるよう取り組んでいます。

来年度も、新型コロナウイルスへの感染対策は継続となりますが、2年間で学んだことを活かして、コロナ禍の中で出来ることを考え、ご利用者へのサービスの向上に取り組んでいきたいと思ひます。

また、職場環境に関しては、人材不足の状況の中、業務内容の見直しや業務の効率化、ICTの導入等の検討を行い、働きやすい職場環づくりにも繋げていきたいと思ひます。

## 2021年度 事業計画

1-1 ご利用者・ご家族の立場になって考え、状況に応じた提案や、より良いサービスを提供出来るよう取り組んでいく。

2-1 大災害・感染症の発生に備えてBCP【事業継続計画】を作成、必要物品等の準備を整える

2-2 小規模多機能サービスとして、自宅での生活が続けるといふ事に焦点をあて、事業所での過ごし方やケア内容について常に自宅での生活状況を意識して考えていく。

2-3 感染予防対策を考慮しながら、ご利用者に楽しんでいただけるよう、毎月の行事や、日々のレクリエーションに取り組んでいく。

3-1 事業所内での行事や活動を、ご家族や地域の方に見ていただけるよう、SNSを活用した発信を継続していく。

4-1 各職員からの意見も取り入れながら、業務の効率化や、ICTの導入の検討に取り組んでいく。

5-1 職員間のコミュニケーションの向上に取り組み、職員間の連携がスムーズに行えるようにしていく。

5-2 ご利用者・ご家族に安心して利用いただき、地域や関係機関からの信頼を得られるよう、法令順守の徹底と、サービス向上に取り組む。

6-1 各職員の気づき（インシデント）の記録と共有を図り、対策を講じることで事故の未然防止に取り組んでいく。

## ちびっこランドちどり

### 2021 年度 総括

今年度を通じて、マスクの装着・手洗い・消毒・換気に努め、保護者へも感染予防の注意喚起等のご協力をお願いし、感染症への予防徹底を行う一年でした。近隣保育所では、園児や職員のコロナの陽性者が発生したため、兄弟関係で関係のある家庭の園児の自粛や、一時預かり事業の一部利用の中止を行い、感染対策を講じました。

保育の面では、子ども一人ひとりの姿を理解して丁寧に関わり、その思いに寄り添って安心して過ごせるための保育が出来るよう、意識の統一を図り職員間で情報共有に務めました。様々な経験を通して、子ども主体の保育実践に努め、視野を広く持ち個々の気付きや発信を増やし保育計画を取り組むことが出来ました。

保護者に対する支援では、子育ての悩みに共感し、助言をし一人ひとり向き合うようにしました。また、コロナ禍において難しい状況の中、SNSを活用し行事の公開等、模索しながら子どもたちの成長を届けることに務めました。

コロナ禍において、日々大きな混乱もなく子どもたちが安心して園生活を遅れたことは喜ばしいです。また、食育を通して様々な角度から、食の大切さや楽しさを伝えることも出来、コロナ対策に追われる一年でしたが、保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで一人の感染者が出ることなく、また大きな事故や怪我もなく、無事に一年を終えることが出来ました。まだまだコロナ対策が続き、ご迷惑やご不便をおかけすると思いますが、より良い保育・教育を目指していきたいと思えます。

### 2022 年度 事業計画

- ① 就労支援と育児支援の両方の社会的相互効果を深める保育計画を立案し実施する。
- ② 年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心し、安定した生活が保障され充実した毎日を送る。
- ③ 園児・職員の安全を第一として、ウイルス拡散防止対策を行うと共に臨機応変な変更、見直しを行う。
- ④ 日常生活の中での丁寧な働きかけをもとに、自分の体を守る知恵や習慣を身につけていく。
- ⑤ 豊富な体験を通し、創造の芽生えを培う。
- ⑥ 菜園活動や調理体験等により食べ物を大切にす気持ちや四季の移り変わりを感じられるようにする。
- ⑦ 安全で楽しく、主体的な園生活ができるような環境の工夫と整備充実を図る。
- ⑧ 保護者や地域の子育て家庭に情報を発信し、子育て力向上の充実を図る。
- ⑨ 職員の資質・専門性の向上のため、外部研修参加及び勉強会の実施を行い知識向上に努める。
- ⑩ 防災・防犯に関する研修や訓練、設備活用等の対策により安全の確保に努める。
- ⑪ 月々の予算設定および進捗状況の管理に努める。

## グループホームしおさい

### 2021 年度 総括

2021 年度も全国的な新型コロナウイルス感染症の蔓延が続き、事業所運営、ご利用者の生活において、常に感染予防対策を念頭に置きながらの日々が続きました。

利用者と家族、事業所と地域との関係性を閉ざさないよう、地域の感染状況に応じて、面会や交流の在り方を緊張と緩和を繰り返し柔軟な対応が求められました。ただコロナ禍のなかでも、新たな形としてオンラインを使用したこども園やボランティア団体との交流の機会も設けることができました。形が変わっても利用者の笑顔は変わらず、現状下に合わせた様々な工夫や取り組みを見出す大切さをあらためて感じた次第です。

また 2021 度の大きな取り組みとして、事業所のケアマネジメント体制を整え、居住サービスに加えた在宅サービスの展開にも重点をおいてきました。看護師を配置し、各かかりつけ医療機関や薬剤師等と医療連携体制を構築。利用者の体調維持につながり、また各機関・専門職との連携により、健康管理面での事業所力の向上が図れています。また旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症対応の専門的なサービスとして、地域の社会資源として機能するべく、緊急的な利用を含めたショートステイの開設を 4 月より 2 階ユニットで行いました。1 階ユニットも主たる職員の認知症実践者リーダー研修の資格取得ののち、10 月より開設しています。緊急ショートも居宅介護支援事業所ケアマネージャーと連携のもと、自宅より出て帰宅できなくなった利用者の受け入れなども行い、また急な家業に合わせて柔軟な利用にも対応しています。

コロナ禍のなか、大きく事業所体制を変え、理念である家庭的でかつ、専門的な認知症ケアを地域に還元できた 1 年であったと自負しています。結果として、事業所運営においては大幅な収支の改善が図れました。安定した事業所運営のもと、職員の心身の充実を図り、引き続きよりよい認知症専門のサービスが提供できるよう努めていきます。

### 2022 年度への課題及び展望

1. 地域圏域におけるただ一つの認知症対応型サービスの専門性を活かし、地域に欠かせない社会資源として機能する。
- 1-2 法人理念・事業所理念に沿い、今一度認知症ケアへの支援者倫理を共有し、支援に還元していく。
- 2 with コロナのもと災害感染症状況下にも、デイショート在宅支援を含めた事業所継続への策を常に講ずる。
- 3 with コロナのもと、運営推進会議や社会福祉協議会を通じ、地域住民との関係や活動を再活性化させる。
- 4.5 チームケアのなかで、引き続き年齢や得意分野に応じた職員ひとりひとりの役割の明確化と居場所作り。世代交代への窓口としていく。
- 6 専門性の高い居住・在宅サービス提供の結果として稼働率の向上をはかる。また経費の削減も加え継続的な収支改善の土台を作る。 コロナ禍においても運営推進会議や社会福祉協議会を通じ、地域住民との関係や活動に参加をしていく。

## しおさいデイサービスセンター

<b>2021年度 総括</b>
2020年度当初より、新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い共用型であり入居者とともに過ごすデイサービスについては、積極的な受け入れが行えない状況でした。地域からは認知症対応に特化したデイサービスへの期待も強く、2021年度は、職員体制の充実と兼務要件の緩和等もあり、稼働体制を整えて本格的な再開を行いました。旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症対応の専門的なサービスとして、地域の社会資源として機能するべく、8月より認知症対応型デイサービスを再開。圏域で土日営業の通所サービスがなく、その受け皿ととなるべく土日の営業を行っています。入居者と生活を共にする共用型デイとして感染予防に十分留意しながら、1日あたり1～3名程度の利用者を受け入れ。時間も夕食後の送りを含み、ニーズに応じて柔軟な対応を行っています。
<b>2022年度への課題及び展望</b>
認知症対応型通所サービスを提供する事により、旧一宮町圏域を中心とした認知症高齢者、家族への支援を行い、地域の資源としての役割と責務を果たしていきます。営業日は引き続き土日営業を行い、利用時間は9：50～17：00までを中心としてサービスを実施。ニーズに応じて夕食後の送りなど柔軟な支援を継続していきます。利用者の自宅での生活維持と家族においては介護負担軽減を図ります。サービスを利用する事で、利用者の社会参加を実現し、家族を含めた在宅生活の継続を支援し、自宅での孤立化の防止に努めます。

## 小規模多機能型事業所 ぬくもり

<b>2021年度 総括</b>
今年度は3月1日時点で登録者は20名、稼働率は69%。新規登録者は3名、登録解除者は3名となり、登録解除の要因としては、グループホームへ入居、死去された事によるものです。昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も運営に於いて、感染予防に多くの時間を費やす事になりましたが、外出ドライブなどは行いました。施設内の行事、レクリエーション等は感染対策を実施しながらご利用者に楽しんでいただく事ができました。小規模多機能の特性を活かし「通い・訪問・泊り」のサービスをご利用者の状況に合わせてながら柔軟な提供により、ご利用者の支援に繋がるように努めてきました。
<b>2022年度への課題及び展望</b>
2022年度もコロナ感染収束がはっきりとは見えない状況にありますが、毎日の感染予防に徹しながら安全第一で運営を続けていきます。ぬくもり職員として、ご利用者の在宅生活が継続できるように、職員の資質向上を図りながら、職員が協働しチームとして支援していきます。また、私達は地域福祉を担う重要な役割を担う仕事である意識をもちながら日常の業務に取り組んでいきます。また、職員同士がプラス思考で意見の言いやすい雰囲気職場、働き続けたいと思うような職場を今後も目指しま

す。

2022年度は、旧津名図書館に於いて新しい施設に移転し、「保育所」、「居宅介護支援事業所」との共有の施設となります。今後は、3つの事業所が協力し連携しながら、千鳥会の新しい施設として地域福祉の向上にさらに役立てるように努めていきます。運営面では適切な利用稼働率を目標とし、安定的に運営できるように努めていきます。

防災面では、大雨、台風、南海トラフ大地震等の災害に備えた、避難訓練等も実施していく計画です。

## 佐野デイサービスセンター

### 2021年度 総括

今年度は、昨年度よりご利用者数も増えた時期もありましたが、終盤に向け、新型コロナウイルスの感染拡大により多くの方が利用できない時期が続き、本当に寂しく思いました。行事に関しては、感染が流行していない時期にご利用者と外出でき、喜んでいただけたのは良かったと思います。大きなアクシデントもなく過ごせたのは、各職員が気を付けて業務に取り組んだ結果だと思っております。新年度も引き続き、感染対策を取りながら、安全に楽しくサービスを利用していただけるように努力していきます。

### 2022年度への課題及び展望

1. 品質保証委員会を開催し、サービスの質の向上を図る。
- 1-2. 法人開設30周年を記念したイベントを法人内で取り組んでいきます。
2. SNS・広報誌を活用し、社会に情報発信を行います。
3. 職員の声を聴き、柔軟な対応をとり、働きやすい環境づくりを行います。
4. 法令に関する勉強会を行い、コンプライアンスの徹底を図ります。

## 千鳥会福祉用具貸与事業所

### 西暦2022年度事業計画

福祉用具とは、車いすや手すりなど、高齢者や障害者の自立をサポートし、介護する方の負担を軽減する用具を指します。

福祉用具貸与事業は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送る事ができるよう、指定を受けた事業者が、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な福祉用具を選ぶための援助や取り付け、調整を行い福祉用具を貸与する。

### ◆提供できるサービス

要介護・要支援



自立した日常生活を送る事ができるように、利用者の心身の状況を勘案して、適切な福祉用具の貸与を行う

#### 【福祉用具の貸与対象種目】

介護保険法において、福祉用具は原則レンタル支給となりますが、入浴・排泄用に供するもの等貸与になじまないものは特定福祉用具として販売対象となります。

#### 【福祉用具貸与対象種目】（13品目）

- 車いす
- 車いす付属品
- 特殊寝台
- 特殊寝台付属
- 体位変換器
- 認知症老人徘徊感知器
- 床ずれ予防用具
- 移動用リフト
- 歩行器
- 歩行補助つえ
- 手すり
- スロープ
- 自動排泄処理装置

#### ◆【人員配置】

- 管理者 1 名

※他の業務との兼務可能

※併設する事業所、施設などがある場合、これらに従事する者との兼務可能

- 福祉用具専門相談員（常勤 2 名以上）の配置

※福祉用具専門相談員指定講習に相当する講習の課程を修了し、終了した旨の証明書の交付を受けた者

※都道府県知事が指定する一定の基準講習（福祉用具専門相談員指定講習）の課程を修了し、終了した旨の証明書の交付を受けた者

※介護福祉士、技師装具士、保健師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護職員基礎研修修了者、介護員養成研修 1 級・2 級過程修了者

#### ◆【その他】

運営基準は、下記の要件を満たす必要があります。

- 利用者の希望・状況に応じた適切な福祉用具の選定

- 福祉用具の説明・点検・調整・修理等
- 多くの福祉用具を取り扱う事
- 適切な消毒・保管(委託可能)
- 提供するサービスの評価・改善
- サービス提供拒否の禁止

正当な理由がなくサービス提供の拒否はできません。

サービス提供困難時の対応

事業実施地域の関係で適切な提供が困難な場合は、他事業所の紹介等を行います。

#### ◆継続的なニーズによる安定運営

本格的な高齢化社会により、福祉用具の需要は高まり続けており、経済的な理由などからレンタルを希望する人々も増える一方です。高齢化現象は今後も続くと予測されており、福祉用具貸与事業には安定した運営が見込まれます。

#### ◆地域社会への貢献

福祉用具貸与を通じて、高齢者の方や障害を持つ方の生活の質の向上に貢献できます。又、多様な人々が社会に参加出来ることで、より豊かなコミュニケーションづくりにも貢献できると考えます。